## 第4回 被爆2世・3世交流と連帯のつどい

於:岡山市 岡山県立図書館&オルガ 2019年11月16日(土)~17日(日)

# 報告書



開催目的・プログラム・参加者数	2
講演と紙芝居上演 アーサー・ビナードさん 「この世はぜーんぶ紙芝居」	3
3つの分科会報告1、 被爆体験の継承と仲間づくり2、 被爆2世・3世の健康について話そう、考えよう3、 被爆3世同士でフリーな話をしよう	20 31 44
第4回「被爆2世・3世交流と連帯のつどい」に参加して 参加者感想文	45

#### 「被爆2・3世交流と連帯のつどい」実行委員会

(京都「被爆2世・3世の会」・広島県被爆二・三世の会・岡山「被爆2世・3世の会」)

### 開催目的・プログラム・参加者数

#### 1. 開催目的

- ① 被爆二世・三世の各地の「会」や個人がつどい、活動の経験交流と学びあいを通して、より充 実した「2世・3世」の運動を創り出していく。
- ② 健康問題など2世・3世に共通する問題を掘り下げ、共同の力による問題解決の方向を考え合 っていく。
- ③ 被爆二世・三世の全国や各地域の「会」と個人の日常的な関係作り、交流と情報交換のつなが り作りを考え合っていく。

#### 2. 主催

「被爆2世・3世交流と連帯のつどい」実行委員会

(京都「被爆2世・3世の会」、広島県被爆二・三世の会、岡山「被爆2世・3世の会」)

#### 3. 開催日

2019年11月16日(土)~11月17日(日)

#### 4. プログラム

#### [1日目/11月16日(土)]

#### ■全体会 会場:岡山県立図書館

- (1) 開会あいさつ・諸連絡
- (2) 講演と紙芝居上演 アーサー・ビナードさん 「この世はぜーんぶ紙芝居」
- (3)活動交流
  - (1) 朗読劇「ヒロシマのある国で」(岡山「被爆2世・3世の会|スリーピース)
  - ② レポート「ニューメキシコ州を訪ねて」

(京都「被爆2世・3世の会」・守田敏也さん)

③ レポート「DuPaul 大学(アメリカ・シカゴ)で行った特別授業 |

(神奈川県原爆被災者の会二世支部・森川聖詩さん)

#### ■夕食懇親会

#### [2日目/11月17日(日)]

#### ■分科会 会場:オルガ会議室

- ① 被爆体験の継承と仲間づくり
- ② 被爆2世・3世の健康について話そう、考えよう
- ③ 被爆3世同士でフリーな話をしよう

#### ■昼食後オプショナルツアー(自由参加)

岡山空襲戦跡巡り

#### 全体で137人 5、参加者数

- 京都「被爆2世・3世の会」10人
- 広島県被爆二・三世の会 10人
- 岡山「被爆2世・3世の会」16人
- 神奈川県1人、岐阜県1人、埼玉県1人、香川県2人、岡山県2人 1日目の全体会の岡山市民参加94人

# 第4回被爆2世・3世交流と連帯のつどい アーサー・ビナードさんの講演 この世はぜーんぶ紙芝居



#### ■日本語に足を踏み入れた時

紙芝居がやっとできたのですけど、実は作りながら演じて、たくさんの人に観ていただいて、大物の先輩たちも観てくれて、やっと今年の春に形になったものです。今日演じる時はみなさんは観客なんですけど、この5年の間に観てきていろいろ教えてくれた人たちはどっちかというと実験動物だったんですね。

一番辛抱強くこの紙芝居の創造に無償で、報われない形で関わって下さったのは高畑勲さんなんです。あのジブリの、アニメの映画監督で、しかも岡山空襲の経験者なんですが。高畑さん、3回も見て下さいまして、喫茶店で1対1で見てもらいまして、そういう感じでアドバイスをたくさんいただきました。

紙芝居ができて、これ出版なんですよ。この5~6年の間に何度言われたか分からないんですが、実は紙芝居ってちゃんとバーコードがついていて、定価があって売ってるんですね。だけどみんなに言われたのは「紙芝居ってまだあるんですか?」とか、「紙芝居って出版できるんですか?」とか、すごく言われたんです。

もう本当に腹が立って、というか、でも分かります。一般家庭にはあまりないものですね。「今日ちょっと紙芝居買って帰ろうかな」というのはあんまりない。よっぽど紙芝居に関わっている人じ

やないと。本を買う人はあっても紙芝居はなかな か。

そういうこともあって紙芝居が今、日本の中で どういうメディアになっているか、ということも 探りながら作っていったのです。

そもそも僕は紙芝居については無知でした。それは当然と言えば当然なんですね。僕はアメリカのミシガン州で生まれ育って、日本語は関係も興味もなくて、22歳になって大学の4年生の時に、ひょんなことから日本語と言う言葉にちょっと触れて、日本という国には別に興味はなかったのですけど、たまたま読んでいた論文に「日本語とはどういう言語か」ということが書いてあったのです。とても初歩的な説明だったのですけど、それを読んだ時にちょっと信じ難いような思いだったのです。

僕が読んだ論文はどっちかと言うと言語学中心の話だったのですけど、日本語と言う言語は3種類の文字があって、日本語を使う人たちはわざわざ2種類の音を表す文字と、それから大陸から渡ってきた意味が組み込まれている音も備わっている文字を混ぜながら言葉を使う。読んだ時、日本人って頭おかしいんじゃないかと、こんなことわざわざやるってどんな思考回路だろうと思って、興味があったんですね、自分の理解を超えているし。みんな狂っているんじゃないかと思って、それで調べ出したらますます分からない。英語でいくら調べてもひらがなとカタカナの違いは分からないし、なんでわざわざ2種類あるのか。一つでいいじゃんと思うんですよね。そういう疑問が次々と湧いてきたのです。

僕は英文学をやっていて、しかもその英文学の中のエリザベス時代という、シェークスピアとかそういう連中が活躍していた時代を中心にやっていて、卒業論文はその頃の詩人たちの造語をテーマにしていて、だから言葉作りを調べていた。言葉作りを調べていたら、もう言葉を不必要に増やしている人たちに出会った。それが日本語でし

た。で、必然性も分からないし、この人たちちゃんと喋るのかなと思って、そういうことが気になって。卒業論文書かなきゃいけない、卒業しなきゃいけない時期だったのですけど。

僕が世話になったコルゲート大学にはアジア 言語科が、英文学と同じ建物の中に、ローレンス ホールと言う古い石作りの建物の中にあったん です。僕の専攻は英文学だから由緒正しい、一番 品格がある。だから僕らのゼミとかは最上階の3 階の谷が見渡せる一番素晴らしい部屋でした。ア ジア言語学科は地下室。だから格差が歴然と。で も興味が沸いて、日本語ってちょっと覗いてみた いなと思って、それで下界へ降りて、日本語を教 えている"あいざわよういち"と言う先生に階段 ですれ違った時に「ちょっと興味があって、授業 料払わずに授業受けてもいいですか?」とすごい 虫のいいことを言ったら、「いいよ」と言われたん です。それで僕は初級の日本語のクラスを3ヶ月 だけ参加させてもらって、それで道を踏み外して、 今日に至っているのです。

は本当に優しくて、最初授業料払っていないから、また初級のクラスだから大きな教室なのだろうと思って、つまんなかったら後ろの方で寝たりできるだろうから、そんなつもりで行ったら13人しかいない。教室に入ったら、「おお、君来たね。みんなに紹介します、今日新しい仲間が増えました」なんて言われて、完全に巻き込まれちゃって、それで"あいざわ"先生から手取り足取り教えられてきました。

今日黒板に書いてくれている私の名前「アーサー」。この名前と初めて出会ったのは1990年の2月の上旬。それまでの僕の名前はArthur。この名前は英語の中でも由緒正しい名前で、王様の名前にもなっている、King Arthur。一番偉い。比較対象にはならないけれど、Arthurって言うととても強い。ちょっと秋田犬になったつもりで吠えると丁度ネイティブの発音に近くなる。「R」が入っていると強くなるんですね、獣の声とか。語源調べると熊を意味します。だから世が世なら僕は熊太郎。

だけど"あいざわ"先生の教室に入ったら、君の名前は「アーサー」。その時僕は日本語やめよう

かなと思った。「アーサー」、名前じゃなくてため 息みたいな。どこに力入れたらいいのか分からな いですよね。いまだに納得していない。でも、 Arthur とアーサーって、辞書をひけばアーサー王 って出るんですね。でも「アーサー王」って可哀 そうだよね。熊の王様は強いんですよ。「アーサー 王」と言ったらクラゲみたいな感じで全然力が入 らない。でもこれが、日本語と英語と行き来する 時、こういうことが起きるんだ、感覚が変わる、 どっか仕組みが大きく変わる。

日本語に出会う前に、イタリア語に興味を持って、イタリアに行ってイタリア語も覚えたんですけど、イタリア語と英語の違いに比べると、日本語と英語、日本語とイタリア語の違いの方が断然大きくて、そして文字が変わる、そして文字が選べる。

僕は英語の中で育って、26文字しかない。全然不足なくやってんですよ。もっと文字が欲しいなあとか別に思ってなかったけど、日本語やりだしたらもう英語が貧乏臭くって。これしかないのかって、いつも予算が足りない感じです。日本語はいくらでも選べるのに。

"あいざわ"先生にアーサーはひらがなでも書けるよと言われて、初めてひらがなもその時見たのです。ひらがなで書くともう名前でも何でもない。僕は最初なんで二つの音を表す文字が用意されているのか分からない。日本人おかしいんじゃないかと思ったけど、でも自分につながる問題になると、やっぱりカタカナはあった方がいいいと。

その感覚も日本語に分け入っていって、少しずつ壁にぶつかったり、いろんな発見があったりして、だんだんと日本語の不思議なため息みたいな名前も自分のものになっていった。日本語の多様性というものがとても自分にとって大事になってきたし、道具箱にやがてなっていったのです。

最初は覚えるのに必死だったけど、日本語が使えるようなり、自分の感覚で選べるようになっていったら、本当に日本語の多様性が大事だなあと思うようになりました。

#### ■日本語の線引きを見抜こうと

線引きを、どこで線を引くか。例えば、僕は今 もアメリカ国籍なので日本にいると外人と言う 部類に入る。今は外人って言っちゃいけないんだけど、僕が日本に来た頃、今から29年前にはみんな普通に外人と言っていました。でも思えば外人ってきつく言われるとやっぱりその当時も嫌でした。僕が日本に来て、住む所もないし、縁者も知り合いもないからどこに泊まったかというと外人ハウス。外人ハウスは当時は違法な宿泊施設で、東京にはいっぱいあったのですけど。今は民泊でギリギリOK、法律が変わったから。でも外人ハウスって、普通に外人が言ってたね。

それから商店街に行くと、当時池袋に住み着いていたんだけど、池袋の商店街に行くと「外人さん」と呼ばれたね。「さん」つけられると、なんか「いいか」と思ったね。でも今は外国人って言わなきゃいけない。

昔の歌があって、横浜に行って覚えたのですけど、「横浜の港から船に乗って異人さんに連れられて行っちゃった」という歌。昔だったから外国人じゃなくて異人だったのだと思うけど、あの頃も「異人」に「さん」をつければいいんだった。自分が外国人、外人、異人と、自分のことだから興味があるし、いろんな所へ行くと、何と呼ばれているかとか、そんなことにも興味があったのです。

ある時、友だちと一緒に伊豆を巡った時、下田で新しい言葉に出会いました。下田に行ったことはありますか? 唐人お吉って聞いたことありますか? 唐人と言うのは要するに外人と言うこと。もっと昔の言い方で、唐の国、唐の国の人。僕がもっと来日が早かったら唐人と言われていた。アメリカからでも唐人、別に唐でなくてもいい。唐辛子も別に唐から来たんじゃない。唐辛子は南米・中米産だけど、要するに外国から珍しい異国情緒溢れるものが唐、唐人なんですね。

それで唐人お吉という人がいました。僕の母国が日本を乗っ取ろうとしてハリスという工作員が、いや工作員じゃなくて通商代表が送り込まれて、そいつが下田にいて、玉泉寺と言うお寺に泊まっていて、玉泉寺にいる時に病気になって、そのお吉と言う人が来て、一説によると妾になったとか、仲良くなったとか、はっきり分からないこともあるけど、お吉が唐人なんですよ。

僕が日本語を学んでいる時に、そんな話に出会

って、「唐人お吉」って唐人と言うのは不思議な名前だなあと思ったのです。結構日本人っぽい名前ですよね、唐人の割には。唐人アーサーなら分かるよね。唐人マイケルとか、唐人メアリーとか。それはあり得るけど、唐人お吉って、日本人臭い名前だなと思って調べたら、お吉って下田に生まれた人なんですね。お父さんは船大工なんです。船大工以上に日本人らしい人っていますか?・・・お吉は生粋の日本人なんです。下田に生まれ育って、お吉と言うこの上なく日本人らしい名前を、めでたい名前をもらった日本人だった。だけどハリスと出会った頃から、ずっと唐人お吉と言われるようになった。なんでや、なぜ日本人なのに唐人になるの?

外人と一緒になったから唐人になる。つまり外国人であるということは伝染病なんです。外人と触れたりすると感染して日本人が外人になるという話なんです。うつるんだということ。それを初めて意識しました。うちの妻もとっくに唐人。めちゃくちゃ抱いているからいっぱい唐人になっている。

でも逆もあるかも。僕がず一つと強烈な日本人 に抱かれたら僕が日本人になるだろう。これは分 からないですよ。結論は見えていないけど、でも 不思議な線引きがここにはあって、いつも思うの は、たとえばハリスがメスでお吉がオスで男女が 違っていたら、唐人にならなかったのではないか という気がします。ウイスキーを作ったドラマの "まっさん"、あれ旦那は唐人って言われていな いよね。だからジェンダーも変な線引きがここに 入っているし、時代もあるけど。でもこういう風 に細やかに分けて区別して、あるいは差別してい くと、実はそういうことが起きる。あるいはそれ を狙って物語としてプロパガンダの利用価値も あるから、もしかして、そういうことも入ってい るかもしれない。僕は自分の中では結論は出てい ないけど、線引きって日本語の一つの特徴と言え るのではないかなと。僕がどれぐらい日本にいた ら唐人じゃなくなるのか、これは今実験中です。

もう29年もいるから、アメリカに22歳までいて、ちょっとイタリアとか行ったんだけど、も うアメリカで過ごした時間より日本で過ごした 時間の方が長い。仕事も半分以上は日本語。もち ろん翻訳で行ったり来たりは常で、いろんな英語 と日本語の仕事をやっているけど日本語の方が 多い。僕もいよいよ何人なのか分からなくなって きました。

そういう風に感じていたところへ、今年に入ってからですけど東京で、日本語で東京の図書館でしゃべるということになって、司会者が僕を紹介する時に、今までなかった紹介をしてくれたのです。会場には僕の日本語の絵本が並べてあって、「こんなに日本語で絵本を書いている。でもアーサーと言う人は英語ペラペラなんです」と。会場は受けました。

思い出せば僕はずーっと周りから褒められて 日本語ができるようになったんです。コルゲート 大学の"あいざわ"先生から教わってちょっとだ け日本語ができるようになって、それで日本に来 て、日本でいろんな人と出会って、ほんの少しし か喋れないのに「日本語ペラペラですね」とか言 われて、それでいい気になってもっと覚えてここ まで来たんだけれど。「日本語ペラペラ」と言うの は結構言われてきて、何百回と何千回と。でも「英 語ペラペラです」と言われたのは初めてでした。

人生で初めてのことだったので、辞書の大辞泉を開いて「ペラペラ」という言葉を引いたんです。すると凄いことが書いてある。「ペラペラ」とは、「軽々しくしゃべる様」。例文として「人の秘密をペラペラ話してしまう」。これ褒められてないじ

「軽々しくしゃべる様」。例又として「人の秘密をペラペラ話してしまう」。これ褒められてないじゃん。2つめの意味は「外国語をよどみなく自由に話す様」。同じペラペラなんだけど、意味が二つある。僕が日本に来て「日本語ペラペラですね」と言われた時は外国語をよどみなく自由に話す様。こないだ図書館で「英語ペラペラ」と言われたのは軽々しくしゃべる様。だって僕は英語が母国語だからペラペラじゃないんでね。外国語でなきゃ誉め言葉にならない。

こういうところが日本語の恐ろしさです。同じ 言葉がこういう風にある境界線を越えると変わ るし、その境界線を越える時に、僕らの意識とか 見方とかも変わる。これが日本語の良さ、強さで もあるし、日本に暮らす人々が権力者や企業に騙 されたり振り回されている仕組み、仕掛けでもあ る。 日本は何でも線引き。誰かの家に行って、入ろうと思ったら、靴脱いで、どこで靴脱ぐかちゃんと線があって、靴脱いでスリッパに履き替える。そこでトイレに行こうと思ったら、今度はトイレのスリッパがあって、別のスリッパを履くことになる。その境界線があいまいな時もあって、このスリッパでどこまで行けるのか迷ってしまうこともある。

そういうことを僕らは日常的にやっているというか、やらされていて、それが時間においても毎年毎月ある。一番大きいのは暮れと新年。この線は凄い。アメリカでは全然気にしない。ハッピーニューイヤーと言ってちょっと騒ぐだけ。「ハッピーニューイヤー」を辞書で引くと「あけましておめでとうございます」と出る。でも全然意味が違う。

「あけましておめでとうございます」は恐ろしい線引き。もうすべてが変わる。同じ夢なのに初夢になる。同じ字を書いているのに書初めになる。すべてが新しくなって汲む水も若水となる。何も変わっちゃいないのに。誰かと会うと必ずあいさつしなきゃいけない。一昨日会っているくせに「本年もよろしく」と言って。それを毎年毎年やるでしょ。

今年はもっと恐ろしいことがありましたよ。平成と令和の線引きをやったでしょ。何の意味があるのか分からないですよ。どうでもいいじゃん。どこに令和があるの? でもそれをすべてにおいて引いたりして、令和元年と言う。5月までは平成だったよ。別にどっちでもいいじゃん。日本から一歩出たらそんなもの関係ないでしょ。

もちろん西暦だってキリストを基準にしてやってるって、そういうことになるかもしれないけれど、西暦は恣意的に、ある権力組織、ある経済力を持ったところが、みんなの意識を操作するためには動かせない。西暦は一応決まっているから。でも、日本の明治、昭和、平成、令和はすべてが政治の道具に使われている。みんなを振り回す道具に使われている。使う意味のあるとところでは恐ろしく使おう、使う意味のないところでは使わない。これもすごい線引きなんですよね。

たぶん電通あたりで決めていると思うんです

けど、たとえば令和元年の何とか何とかのイベントとか、みんな令和元年で、だけどラグビーのワールドカップとなると「令和元年のワールドカップ」じゃない。2019年ラグビーワールドカップ。令和2年の東京オリンピックって聞いたことがないよね。だから令和が効くところと効かないところをやっぱり振り分けて使う。使うならすべて使ってよ。令和2年の東京オリンピックと言えばいいじゃん。でもそういうところで使うと令和そのものがおかしいというふうにバレちゃうから。そもそも東京オリンピックは開催されない。あんなものできるわけないじゃない。それがもう始まっているよね、マラソンは札幌で走るとか。

そういう線引きが僕らを振り回す道具に使われることは、僕はそれを感じながらも実は線引きが好きなんです。好きなんですけれどもそれによって自分が騙されたり、馬鹿にされたりすねことは悔しいから、それを見抜くところになるべく力を入れようとしている。多様性、いろんな区別があった方がいいと思う。ただ、その世界、豊かな細やかな違いを見ることは僕らがやらなきゃいけない。僕らがやってなくて、見抜いてなくて、やられる時には騙される。幻想に振り回される。令和はそういう感じだと思う。いろんな線引きに突き当たることがあって、自分にしたら外国人は自分が超える境界線みたいなものだけど。

#### ■ピカ、ビカドンとの出逢い

日本に来て6年ほど経って初めて広島に行ったんですね。それまではもちろん原子爆弾とか原爆とか被爆者という言葉も日本語で覚えて、日本語と英語とどういうふうに読んでいるかということも、一応言葉の知識というか単語として覚えていたし、自分の母国の政府が原爆を投下した街にいつか行きたいというか行く時期が来るだろうと思って、それが6年経ってからでした。今思うとすぐ行くべきだった。すぐ行ってたらもっと頭が良くなっていたと思う。なんか行くのがちょっと恐かったのかもしれない。

僕は小さい時から、アメリカにいる時から、子ども時分からローマ字で書く Hiroshima は耳に入っていていろんなところでこういう表記は見ていた。でも Hiroshima って場所なんかは全然意識

していなかった。考えれば分かる。日本のどこかにそういう場所があった地名だということは、多分自分が何だろうと疑問を持って考えればすぐそういうことに行き当たったと思うけど、考えたことがない。

Hiroshima が出てくる時はどういう意味で出てくるかと言えば、原爆投下とか原爆が使われること。キノコ雲の現象が引き起こされることがHiroshima。多くのアメリカ人が、イギリス人も、英語を使っている人たちが Hiroshima と聞いた時に連想するのは人の生活とか地名とか、そういう街、太田川の三角州じゃない。浮かんでくるのは原爆とか。それはとんでもない時代錯誤で、広島と言う街があって、原爆が投下されて、原爆が投下されたことがその街とつながった時に、そういう意味になったけど、もう英語の中の Hiroshima はどちらかというと原爆から始まっている。

それを見抜くことはそんなに難しくないし、英語で考える人だけが Hiroshima の奥の意味に行き着くのは、きっかけがあればだれでも行けるけど。ほとんどの人は僕も含めてそういうふうに考えないで Hiroshima って言ってた。それは長崎に関してもそう。

この間どうでもいい話題なんだけど、アメリカのどっかのテレビに、僕はテレビ嫌いで、でもテレビには出ているんですけど、でも見ないから分かんないですけれど、アメリカのテレビドラマでNagasaki という言葉がコテンパンにやっつけるというか、全滅させるというか、徹底的に相手を潰す意味でNagasaki という言葉が動詞として使われていました。

No nuke という言葉もそのように使われている。 a nuke you と言ったら、これは nuclear から来ているのだけれど、核兵器を使用するという動詞にもなるけど、核兵器を使用するということは徹底的に相手をやっつける、核兵器の連鎖反応に関係なく相手をやっつける時に使われる。イギリスチームがニュージーランドチームを nuke しちゃったとも言える。ラグビーで徹底的にコテンパンに。だからそっちの意味が強くて、僕は日本に来るまでは多分向こうを見ようとしていなかった。

で、日本に来てから少しずつ日本の地図、日本の歴史も少し入ってきて、広島という街が視野に

入って、広島に行ったら今度は自分がその町を歩いて、街の人たちの話を聞いて、この Hiroshima の意味がすっごく大きく変わったんですね。多分誰でも広島に行けばそうなると、長崎に行けば長崎が具体的になるし、人々と語り合えば自分とつながることだって分かると思うけど、でもそういう体験を得るまでには何も見抜けていなかった。

僕はちっちゃい時から広島とセットで、長崎とセットで使っていたのは Atomic Bomb ですね。日本に来て、日本語を学んで、原子爆弾と言う言葉、それから原子爆弾を縮めると原爆になることを知ったけど、すごく近いのですよね。 Atomic Bomb は原子爆弾なんですけど、とっちゃってもいい。A Bomb。そうすると原爆になる。原子爆弾という日本語を漢字で2文字にして書く日本語と Atomic Bomb を A Bomb と書くととっても近いということも感じていました。広島に行く前から。その言葉を覚えた時に、ああそっくりだな、と同じ感覚のように、感覚と言うか、同じように言葉が組み立てられていると思っていたのです。

広島に行った時に、街を歩いて、平和記念資料 館に行ったのですが、その時、スタッフが親切に 「今日は被爆者の話を聞く会がありますのでよ かったらどうぞ」と案内された。僕はその時に、 そのことだけで驚いたのですけど、被爆者の話っ て聞き得るものじゃない、と思っていたのです。 だって英語で、nuclear weapon とか、Atomic Bomb とか、Hiroshima・Nagasaki と言った時、 それは全滅という感じがあるんですね。そもそも 大日本帝国という犯罪組織がアジアを侵略して、 そういうならず者たちがとんでもない犯罪を繰 り返して、その奴らを止めるためにアメリカの軍 隊が闘って、そもそも真珠湾に大日本帝国という 犯罪組織が手を出したから。そういう形でアメリ カが大日本帝国を潰すというか、止めるために Atomic Bomb を開発して、当然のこととして使っ て、そのお陰で戦争が早く終わって、だから正し かった、必要だったというのが定説。それは中学 校でも高校でも教わったし、でもそれは別に Hiroshima とは関係ないから、自分が生まれたの は原爆投下から22年も経っているし、自分とつ ながることだと思ってないし、日本に行こうとい う興味もないし、ということで僕は遠い話として、 他人事みたいに聞いて感じていた。情報はある程度入っていたけど。定説を積極的に信じていたわけじゃないけど、でも原爆投下はそうじゃないんだ、原爆投下は戦争を早く終わらせたわけじゃないんだとか、そういう疑問はなかったのです。

だけど広島に行ったら「どうぞ今日被爆者が語る会があります」と言われて、被爆者に会えるんだと思って、生き残った人がいるんだと驚いて、その会に参加して、そしたら一人の女性が、当時子どもだったけど、1945年の8月6日の朝の体験を語った。家族で朝ご飯食べて、片付けていた時にピカーッと来た、と言ったのです。ピカーッという言葉がそこで出てきて、その後家が潰されたけど、どうにかそこから出て、どういうふうに命をつなげたか、どういうふうに生きてきたかを話す時に、核分裂の連鎖反応が引き起こされた瞬間、その時に放たれた破壊力、その現象を「ピカーッ」とおっしゃった。

僕は日本語を6年もやってたから、ピカピカ光るとか、ピカピカになるまで磨くとか、擬態語としてこの音を修得してたけど、これが光に関する擬態語だと分かってたけど、核分裂の連鎖反応を表す単語になるということはその時初めて知って、しかも資料館の展示物をその後見て、そしたら『ビカドン』という本が飾ってあって、このビカドンとピカという2つの単語を覚えて僕は次の日東京に戻りました。

ピカとビカドンは言ってみれば Atomic Bomb と同じですよね。同じ意味で使っている。原子爆弾とピカはそういうふうにつながっている。ピカは辞書を引いても出てこない。ビカドンは出てくる。さっき読んでいたペラペラの定義を提供してくれた大辞泉。これでビカドンを引くと出てきます。しかも不思議なことに大辞泉ではひらがなで「ぴかどん」と出てくる。研究社の辞書ではカタカナで「ピカドン」と書いている。誰が決めているのか?僕はだいたいカタカナで覚えたような気がする。カタカナで書くことがほとんどなんだけど、ひらがなで書くと違う雰囲気がある。

大辞泉はひらがなでぴかは閃光、どんは爆発音を表す。原子爆弾のことで広島で被爆した当時言われ始めた言葉、とある。研究社の和英辞典で引

くと、カタカナでビカドンと言い、英文もいろいる用意していて、英語の定義は何かというと、ビカドンで引くと、ビカドン: Atomic Bomb。僕はビカドンとピカを覚えた後に、辞書を引いて、紙媒体だったけど、同じ辞書を引いて、表している現象は同じと言えるかもしけないけれど、でも自分の中で全然違う感覚があったから、納得できなかったのです。

そして自分で使ってみて、少し使っている内に 見えてきたような気がする。僕は新しい言葉が手 に入ると使っちゃう。使わないとムズムズしてく る。お金もそうですね。お金が入ると使っちゃえ となる。お金と言葉と似ているんですよね。売り 言葉に買い言葉というぐらい。やはり通貨ですよ ね言葉は。ほとんど重なっているけど一つだけ違 うのは、お金は使うと無くなる。それが悔しくて ね。無くならない奴があったら凄くいいのに。

でも言葉は使っても使っても無くならない、不 思議と。使えば使うほど自分のものになるし、な んかそういうところが言葉のまた面白さだと思 って、自分が新しい新出語に出くわして、それを 手に入れるとすぐに使っちゃう。

#### ■原子爆弾と言う言葉は詐欺

今から23年前、東京の池袋に戻って、池袋の 友だちに広島の話をする時に、もう原爆は使わない、原爆はもう知ってるから、言葉としてピカッ て言って、ビカドンも使ってみて、広島の原爆ド ームの前に立って、相生橋の上に立ってというん じゃなくて、池袋の東口で言うと、なんか違うん ですよ。ピカもビカドンも。最初掴めなかったん ですけど、使っている内に自分が東京にいるけど 近い感じがする。原子爆弾って迫ってくるもので もないし、自分がそこに接近するわけでもないけ ど、ピカとかビカドンと言うと距離がない感じが する。

ピカッと言った瞬間、目がちょっと上に行く。 視線が浮く。なんでそうなるのかという感覚に関する疑問が湧いてきて、そもそも誰が作ったんだ ろうと思って、辞書を引いたりして、ああ広島の 人たちが作ったんだとなった。誰が作ったのかは 分からない。でもその後また広島に行く機会があって、また体験した人たちの話を聞く機会もあっ て、いろんな人に聞いてみたんですね。そしたらすぐできたんだって。昼前にはもう広がっていた。 1945年8月6日の午前中に、この言葉、ピカとビカドンと両方ができているというような話だったんです。

広島の人たちがこれを作ったんだ。どうやって作ったかと言うと、アメリカ国防総省、当時はアメリカの陸軍省から「今回使ったのはウラン235だ」とか言う情報はないんですよ、庶民には。広島の巷の人たちは情報がないし、新型爆弾という訳の分からない言葉が公式に出てくるんですけど、それは何なのかということを誰も教えてくれないわけ。で、じゃあ何をやったかと言うと、自分たちの体験、自分たちの感覚、自分たちの熱線に焼かれた皮膚、中性子線に貫かれた細胞、自分たちが浴びせられたセシュウム、ストロンチウムなどを基に、感じたところの最も重要な、最も強烈なところを擬態語で表してピカ、ビカドンを作った。これが本当の造語なんです。

僕は英文学もやっていて造語に興味があったけど、多分世界最大、少なくとも20世紀最大の造語に、広島で出くわして、自分で使っていると、自分の知らない出来事のはずなのに、この言葉を入り口にして自分が接近すると今度はつながってくるんです。原子爆弾といくら言ってもつながらない。

だって原子爆弾という言葉は詐欺でしょ。あんな実態と合わない物理学的にでたらめな言葉はないよ。だって、原子ってどこにあるのか、原子って何なの?原子って細胞よりも小さいけど、でも見えなくてもありそう。感じることはできないけれど知識では知っている。すべてが原子でしょう。物質はすべて原子でできている。だから原子爆弾のて言うと、"すべて爆弾""全部爆弾"。原子爆弾を解説して分かるように言うと"全部爆弾"ということになる。ばっかじゃないの。あんな言葉がまかり通るなんて信じられない。なぜまともな物理学者は抗議しないの?

原子爆弾じゃない。原子が爆弾になるわけない。 全部原子、僕も原子、みなさんも原子。だから科 学的にはでたらめなんだけど、じゃあなんで英語 でこういう名前になったのかと言うと、宣伝効果 が絶大だから、原子をとってきた。

すべての物質が原子なんだけど、それをウラン235という特殊な物質、それからもっと主流なのはプルトニゥム239と言う人工的に作らなきゃいけない核分裂物質で、それをすべての原子の代表にすると言語的に強い。だから Atomic Bomb という言葉を誰が作ったんだろうと。ピカとピカドンに出会って、あれっと疑問が湧いて、それで見抜いた時に、じゃあ誰の造語だろうと思って調べ出した。

それまでは何も考えていなかった。だって僕が 生まれる前からあったんだから。でも考えたら、 僕の爺ちゃんとか婆ちゃんとか母とか、母は戦争 中生まれで今75歳。母が広島にいたら1歳の時 に被爆。その母とかはいつこの言葉に晒されたの か。この言葉がアメリカ国民の耳と目に初めて入 ったのは何時なのかと調べると、1945年の8 月6日。日本時間で言うと7日。その時初めてそ れまで極秘だったペテンプロジェクトのマンハ ッタン計画。それまでアメリカ国民の税金を使い 込んで秘密裏に進めていたものを、今度は広島へ の原爆投下を皮切りに大キャンペーンが始まる。 その時仕込んでおいた広告キャンペーンの商品 名が Atomic Bomb。だから僕の祖父母は、その時 浴びているんですよ、言葉を。降下物よろしく浴 びせられている。それでこれが正式名称だ、これ が当たり前の呼び名だとみんな錯覚して使った のです。

本当は言葉として最初から潰すべきだったのですけど、まあ実に見事なキャンペーンで、みんな振り回された。僕はきキャンペーンが成功してアメリカ国民の思考回路が腐敗した後に生まれているから、僕にはそれが大前提ですよ。原爆は正しかった、必要だったという定説がまかり通っている中で育っているから当然だと思っていたけど、広島に行ったら、なんか広島がガタガタと色々見えてきた。

こんなインチキな呼び名を作ったの、電通とか 博報堂みたいな奴らだよね。コピーライターとい う肩書なんですけど、コピーライターって見たら 詐欺師と言えばいいんですよ。コピーライターは こういう言葉をゼロから作れるかと言うと、ゼロ から作るのはだいたい文学者ですよ。これもそうです。この言葉ができたのはずーっと前、アインシュタインが相対性理論を言って、核分裂でエネルギーが生じるということを予言的に E=MC<sup>2</sup> という公式を出して、その後にサインセクションの作家がこの言葉を使った。だけどその作品は別に受けてるわけじゃないから、先を見通しているけど、格好いい言葉として。実は文学者が作っててこれを悪用したのが広告代理店。アメリカ政府の世界で一番大きな広告代理店はホワイトハウスなんです。そこが使ったんです。



#### ■ピカとピカドンの違いから見えてくるもの

こういう言葉のカラクリができて、誰がその言葉に振り回されたか。その線引きがどこであるかということが、僕にとってはとっても重要な入り口だったんです。すべての出発点がピカ、ビカドン。ピカとビカドンが自分にとっての最初の見抜くレンズで、この言葉を使ったことで自分がどういう立ち位置にいるかということに。自分がピカを使った時は、近いから他人事じゃない。原爆と言ったり、英語で Hiroshima と言ったりすると、これは何か上から目線になって、遠くから自分が直接被爆するという感じではない。ピカはそれが近い。

僕はずーっとピカとピカドン、同じ意味だと思って使っていたんです。で辞書に載っているのはビカドンの方。先ほども言った研究社の和英辞典引くと、ビカドン: Atomic Bomb、それから A Bomb と出てくるんですけど、例文で、娘がビカドンでやられたというのがあるんですね。これを英語に訳しているんですけど英語にすると My

daughter was Hiroshima。Hiroshima がピカドン。 at Hiroshima と言ったら広島で、その後括弧して (Nagasaki) と書いてある。広島がメインになっている。でももしかしたら長崎の話かもしれない、という感じで研究社の辞書を作った人たちは作った。「広島でビカドンにあった」という例文もある。「I was at Hiroshima」。Hiroshima」がそういう意味になる。Nagasaki もそういう意味になる。

そういうことを別に否定するつもりはないし、 英文の中でそういう表現が成立するのはもう事 実なんだけど、ただその程度の線引き、その程度 の区別と観察では、僕らは大きなペテンを見抜く ことはできない。でも英語と日本語とこの違いを 基にここから掘り下げてみるといろんなことが 見えてくる。

僕にとって一番最初の、大事なとても重要な線引きとなったのはこのピカとピカドン。同じ意味だと思っていた。辞書にはビカドンしか載っていないから。でも広島に何回もお邪魔して、いろんな人の話を聞く内に、ある現象に気づいた。

ピカと言う人はずーっとピカなんですよ。ピカドンと言う人はずーっとピカドン。浜井徳三さんと言う人、僕が絵本を作る時も随分お世話になった人ですが、浜井さんは徹底的にビカドン。ずーっとピカドンなんです。でも『はだしのゲン』を描いた中沢啓治さんはピカ。俺にはドンはないとはっきり言ってました。

ピカとピカドン。僕は強める時にドンがつくのかなと思っていた。嘘と嘘っぱちみたいに。ドンをつけるかつけないかなんかで勢いが違うみたいに。そう思っていたけど、どうもそうじゃないんだ。みなさんご存じですか?ピカとビカドンの違い。

随分後になって、これ、みんな使い分けているんだということに気づいて、それで聞いたらそうなんです。自分をその場所に自分の身を置いて考えない人は逆なんです。ドンの方が強いとみんな思っちゃう。違うんですよ。爆心地にう一んと近い人はピカなんですよ。なんでそうなるかと言うとこれは物理学的な話になる。原子爆弾みたいな大雑把で頭が腐るような呼び名を使っているとこういうことが見えない。ピカとピカドンって、これって思考回路にちゃんと入る言葉だから、使

っていると見えてくる。

何が起きたかと言うと、広島の場合はウラン2 35、長崎の場合はもっと恐ろしいプルトニウム 239と言う、もっと破壊力の強いものが使われ ているけど、その空中で、上空で核分裂の連鎖反 応が引き起こされる。そうすると一秒の間に凄ま じいエネルギーが放たれて、その一部が熱線で、 その熱が百万度とも言われていて、それが空中で いきなり生じるから、空気が想像を絶する勢いで 広がる。空気ってちょっとでも暖かくなると膨張 するでしょ。膨張なんてもんじゃない。グワーッ と空気が膨張して、四方八方に広がった時に、真 空の中で広がるんじゃなくて、空気のある中で空 気が広がるから、空気が空気にぶつかって、空気 が空気にぶつかって、空気が空気にぶつかって、 コンクリートのような硬さの空気が音速よりも 速いスピードで四方八方に広がった。

ピカッは光の速度だから一番早い。でもその次の瞬間にグワーッと広がった衝撃波というものが来た。音より早い。だからピカッという光を感じた次の瞬間に高速道路でもろにトラックにひかれるような勢いで空気の壁、衝撃波が来て、みんなぶっ飛ばされて全員意識を失った。ほとんどの人はそれで命を失った。でも奇跡的に命がつながった人も意識を失っているからドンは聞いていない。ドンは入らない。だから自分の体験に忠実で、ちゃんと自分の観察力で言葉を作って、2\*」とか地形にもよるけれど意識を失った人々、衝撃波でぶっ飛ばされた人々はピカなんです。中沢さんは神崎小学校にいて、それがピカの範囲だったんです。

ピカドンは、2.5\*aあたりで衝撃波と音速が追いついて、衝撃波も広がれば広がるほど衝撃が少なくなっていくから、ぶっ飛ばされたけど意識は失われなかった。ドンと言う音を聞いたという人がそこから出てくる。浜井さんはもっと離れた廿日市とかあっちの方。伯父さんのところへ彼だけ疎開していた。自分の家族、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、みんな今の平和公園の、当時中島本町の浜井理髪店と言う名前で経営していた店にいて全員死んでいる。家族はピカ、でも末っ子の徳三さんはビカドン。この線引きは物凄く重要。

この線引きが自分の中に入ると他人事じゃなくなる。誰がどこでどういう体験をしたか、ということが細かく見えてくる。100人の話を聞いたら、その100人がピカとピカドンの使い分けでどの位の距離にいたのか分かるようになってきた。

これからやりたいプロジェクトがあるのですけど、みんなの証言を地図に落として、ピカとビカドンの地図ができる。そのピカとビカドンの地図を持ってきて岡山にかぶせる。そうするともう少しみんな自分の問題として考えられる。もっと重要なのはワシントンにかぶせる。僕の故郷のデトロイトにもかぶせる。こういう言葉を入り口にしたら僕らは見抜くプロセスが始まる。見抜く可能性が出てくる。もちろん自分たちが積極的に言葉を解体しながらやらなきゃいけないのだけど、でも先人たちの作ってくれた道具がある。実に優れている。この線引きはとても効果的だし、とてもまとも。

#### ■広島、ヒロシマ、ひろしま、Euroshima、 Wilfashima

広島にいると、ひらがなとカタカナと漢字があ って、あっ、こういうふうに使われるんだ、と知 ることがある。ひょっとしたら長崎と同じぐらい 日本語の仕組みが一番使える街。みなさん、広島 ってどういうふうに書きますか?広島駅とか新 幹線で降りるとホームに書いてあります、広島と。 でも本当は廣島だった。1940年代半ばまでこ の廣島だった。地図とか資料を見る時、廣島が出 てくると時代が分かる。広島は戦後。これだけで もちょっと区別つくんですけど、さらにヒロシマ がある。これはどういう意味で使っているのか。 国際的に平和を考える時、核廃絶にとりくむ時に 出てくるし、やっつける意味でも使う。当然のこ ととして大日本帝国に対して正当な軍事行動と してやった、そういう意味でも使うから、ヒロシ マと言った時に、そういう地名ではない、地名か ら来ているけど地名と言うよりも、核分裂反応に まつわるいろんな現象が入る。原爆を中心に、あ るいは原爆によって殺されたたくさんの人たち のことを思って、例えばノーモア・ヒロシマと言 う。

僕は十日市町に住んでいるんだけど、紙芝居を作る時に『さがしています』という絵本を作り出して、それが11年前に始まって、作る途中で取材に広島に通っていたんだけど、通って作れるもんじゃないと思って、それで広島に部屋を借りたんですよ。今は、妻も引き摺ってきて広島にいることが多いんですけど。暮らしているとね、カタカナ表記も多いんですけど、ひらがな表記も多い。しょっちゅう見る。ひらがな表記はどうですか?広島の人。ひろしま銀行、ひろしま美術館など。ひらがな美術館って僕は呼んでるんだけど、あれどういう意味?優しいイメージ。

優しいイメージの一つの条件は原爆抜き。原爆を抜くことで優しくなるという感じがあって、だからヒロシマと言う時は原爆入り、原爆中心。ひらがなで言う時は「紅葉饅頭、「お好み焼きを召し上がって」という感じ。ひらがなは観光名所とか、何か買ってね、宮島はステキと言う時にこれになる。

この街で74年前にどういうことがあったか、どういう犯罪が行われたかを言う時にヒロシマがある。僕は多様性があった方がいいと思うし、使い分けられていることを否定するつもりはまったくないけれど、でも誤魔化しの道具にもなり得る。こういうふうに書くことで隠す効果が出てくる。全部これで書かなきゃいけないということはないでしょう。

Hiroshima という言葉が国際性を持っているというのはその通りだと思う。それを強く感じたのは広島で出会ったドイツの人たちと話した時。彼らの先人たちがドイツ、オーストリア、ヨーロッパでどういうふうに核兵器配備、核兵器が使われようとした時に、どういうふうに抵抗して阻止しようとしたか、という話を聞いた時に、そのキーワードがこれだったと言われた。Euroshima。ユーロシマという言葉が1950年代、60年代に盛んに使われていた。盛んにアメリカがミサイルを配備しようとし、ソ連もその核軍拡競争の中で、ヨーロッパが狭間になった時に、ヨーロッパが広島とまったく同じことになるという意味で、ストップ!ユーロシマ。阻止しなければいけない、こ

うなったら最悪、この最悪のシナリオを語って避けよう、止めよう、そういう時にユーロシマはとても重要なキャッチフレーズだった。これもプロパガンダというか、広告の部類に入ると思うけど、ヨーロッパがヒロシマになる。こういうふうにほとんどの日本人は知らないけれど、ヒロシマがこういうふうにも使われてきている。広島は気付いていないけど、ヒロシマは実はいろんなところで、核と闘ったり、核に抵抗する時の大事な言語のツールになった。僕はそのことを広島で知って、ヨーロッパの人たちから教わりました。

3年前、クリスマスの時にイギリスに行った。 僕の幼馴染みで小学校から一緒だった友人がいて、その人らと一緒にクリスマスを過ごそうといって妻と2人でウェールズに行ったんですよ。行く前にちょっとだけ調べものして、ウェールズに原発がある。世界で一番ポンコツの原発、古い型のイギリス原発。東海村に最初に作った、みなさんの税金使い込んで、イギリスのポンコツ原発。最初に正力ネギ太郎と中曽根康カモが買ってきた奴。日本の原発のペテンもそこから始まっている。ああいう原発なんだ。古くて僕の生まれる前からあったらしくて、1号機、2号機があって、2号機は既に廃炉になっていたのかな。1号機がゾンビみたいにまだ動いていたんだけど、もういよいよそれを止める、つまり廃炉が決まっていた。

これからウェールズに行くんだと調べたら、そのポンコツの原発が友人の家の風上にある。僕らはイギリスに行って年末過ごす時に、丁度その記念すべき運転停止、めでたく廃炉になるかもしれない。あるいはめでたく廃炉にならずに、めでたくメルトダウンになるかもしれないけれど。もちろん友人も意識してたし、連絡取りあったらいろんな情報送ってくれて、でも僕らは本当に廃炉の時にそこにいたんです。

それでウェールズに行きました。そしたら、廃 炉だからよかった事故を起こさずに、まあ漏らし てはいるけど、めでたくはないんだけど、しかも 出た高濃度廃棄物はどこに持って行ってもすご い迷惑だけど、でも止まって良かったというふう になるかと言うと、行ってみたらとんでもない抗 議行動が始まっていた。 どういうことかと言うと、実はウィルファという所のポンコツ原発がこれで止まると決まった。 そしたら実は裏でイギリスと政府とならずもの 企業が結託して、ウェールズの海岸を利用できる その敷地内に、廃炉になった2基の原発の解体工 事が始まるのだけど、同時に新しい最新の安全性 の高い見事な日本の原発を作ることになってい た。そのならずもの企業とは日立。イギリス政府 と日立が結託して作るんだ。それを市民に悟られ ないよう裏で進めておいて、ポーンと出したら、 ウィルファの人たちが立ち上がって「とんでもな い」「冗談じゃない」と言って抵抗運動を繰り広げ 始めている時に行った。そういうタイミングだっ たんです。

それでみんながどういうふうに抗議しているかと言うと、□□□□Wilfashima、□□□□
Wilfashima って言ってたのです。Wilfashima が最悪のシナリオを表す言葉として使われていた。僕はユーロシマが頭に入っているから最初パット見た時に錯覚したんです。でも後で気付いた。これ広島の shima じゃなくて福島の shima なのだと。ウィルファが福島になるということ。日本の詐欺集団の日立が安全性の高い原発といっても、でも冗談じゃないよ、必ずメルトダウンするよ。そういう原発をイギリスのウェールズに押し付けようという。それに対して市民がそれに対抗する時に Fukushima という言葉を道具にした。

福島で起きていることがみんなにある程度伝わっているから、福島と同じようにウィルファ原発もメルトダウンするであろう、そのことを視野に埋め込む言葉として使われた。shimaは一緒。日本語にしたら同じ漢字ではあるけれど、福島と広島はそういうふうにつながっていく。僕はこれが本質だと思う。

# ■アメリカ・ニューメキシコ州の核実験被害者からつなぎあおう

広島原発、核兵器、広島はそういう現象。そして広島に本社がある中国電力が島根でやっている原発、あれは平和利用。あれは別物、あれは経済、人殺しではない、というのはもう幻想にすぎない。平成と令和みたいなもの。平和利用と軍事利用の違いは、昭和と平成の違い、平成と令和の

違い、詐欺だ。あのイメージでみなさんが振り回されて、原発は違うと思っているだけ。違わない、同じなんですよ。福島の方がヒロシマの百万倍もやばい。

僕らが今こうやって被爆体験を継承しようとか、どうやって語り継ぐかとか、悩んで、悩むべきだと思うのですが、日本は語り継ぐとかそんな悠長な状況じゃないの。一億総被曝者、安倍総理は一億総カツアゲ時代と言っているけど、それもそうなんだけど、だけど実態は一億総被曝者なんですよ。

子どもたちが被曝しているんですよ。関東、東北が一番被曝している。だけどそこから出てくる、これからも出し続ける凄まじい汚染、汚染土とか汚染水と言って土とか水とかつけるんですけど、それも巡りめぐってみんなの生活に入ってくる。8000ベクレル以下の、それを超えない土はこれから全国の公共事業で使われるから岡山も被曝の渦です。長期にわたって日本のならずもの政府がやっていくつもりだから、僕らが阻止しなければ、被曝はまったく関係ないという地域はまったくなくなっていく。

政府が8年前の3月、地震・津波を受けて原子力緊急事態宣言を出した。出さざるを得ない状況に陥って。福島第一原子力発電所の1号機、2号機、3号機が爆発してメルトダウンして、メルトスルーして、メルトダウンとは言わなかったのですけど、原子力緊急事態宣言を出さざるを得ないところまで追い込まれて、それで出した。それが今どうなっているか分かりますか?

今も宣言は出ている。解除できない。どうしてかと言うと今も原子力緊急事態なんですよ。原子力緊急事態なんだけど、庶民はオタンコナスだから眠っている。現場で働いている人たちは危機感がある。汚染水タンクは満杯になるし、被曝労働している人たちは危機感がある。現場を知っている人たちは危機感がある。現場を知っている人たちには危機感がない。RCC(中国放送)見ている人たちにも危機感ない。僕らが実態を見るか見ないか、見つめるか無視するか、あるいは放っといて世の中の惰性に自分の生活とか自分の思考をまかせれば、それは考えない。だって考えないように仕組まれているから。

でも生き残りたかったら考えた方がいいと思う。僕は生き残りたいと思っている。みなさんも 生き残って欲しい。で、生き残るためには、こう いう詐欺を見抜いて、それで自分たちが歯止めを かけないとまずいことになる。何がまずいか。平 和の問題として、戦争の問題として被爆を語る時、 大事な本質が隠れる場合があります。

広島に住んでいる人たちには分かると思うし、 行ったことのある人も分かると思うのですけど、 広島には原爆資料館はないのですよ。長崎には原 爆資料館がある。広島は原爆資料館じゃない。平 和記念資料館。平和なんですよ広島は。どこへ行っても平和。すごいよ、平和利用までやっている。 だって中国電力の本社が爆心地から歩いて5分 ぐらいの所へあって、そいつらが今、山口県の上 関に新しい原発を作るためのボーリングを今日 やってるんだよ。広島に本社を置いている中国電力という詐欺集団が上関原発を作るんだと言っ て、祝島の人たちが抗議する中で今日も建設のためのボーリングをやっている。それで平和?クソ 平和だよね。どこが平和なの?

それが広島の言葉の作り方。僕はもちろん平和が欲しい。平和を作りたい。平和になって欲しい。武器に金を使うこと自体反対だし、軍隊そのものがいらない。だけど、平和、平和、平和と唱えて、平和式典やって、それで平和が来るかというと、どうもそうじゃない。74年もやっていて平和は遠ざかるばかり。

広島では8月6日に必ずやります広島市原爆 死没者慰霊式並びに平和記念式。で、僕もいつも そこに行くんですけど、残念ながら黒いハイヤー で行くんじゃなくて。あれ乗っていくと気分いい んだろうな。降りて、取り巻きに囲まれて。僕は 歩いて行く。うちから歩いて2分ぐらい。うちの マンションの入口から原爆ドームまで全力疾走 で55秒ぐらい。だからもうすぐ近く。あの日だ け、いつも歩いている所に変に人がいっぱい来る という感じ。

行ってクスノキの木の下に立って聞いていると、まあいろんなこと言うわ。まず一番最初に式辞がある。毎回広島市議会の議長が言うんですね。毎回こういうセリフが出てくる。毎回僕は「違うやろ!」と言って地元のラジオに出てボロクソに

言うんです。毎年のことなのでボロクソに言うのも儀式の一つになっている。でも改めない。どういうふうに言うかと言うと、今年の場合「74年前の8月6日、人類史上最初の原子爆弾は広島の街を一瞬にして破壊し、多くの人々の命を奪い、目に見えない放射線は今なお多くの人々を苦しめ続けています」。なるほどと思うよ、本当は放射性物質も内部被曝も視野に入れた方が正確ではあるけど。でもこういうことに触れるのは大事だと思う。

問題は「74年前の8月6日、人類史上最初の原子爆弾」と言う、ここなんです。違うんですよ。 広島は2発目なんです。人類史上最初の原子爆弾は、僕の生まれ育ったアメリカ合衆国のニューメキシコ州で1945年7月16日に使われた。その爆発力は広島原爆よりはるかに大きい。なぜならばプルトニウム239を使った最新型の核兵器であって、広島で使われた骨董品とはわけが違う。

広島はウラン弾235。ウランは二つの塊に合体させればいくんですよ。中性子線を当てれば臨界量に達していくんです。それは別に難しいことじゃないし、実験しなくてもいいし、無駄が多くて単純だけど、それで十分な破壊力です。

でも核開発の本当の狙いはプルトニウム239であって、それは人工的に作らなければ手に入らない。プルトニウムは扱いにくいし、だから爆発装置と言っても、ギューッと外から押さえながら核分裂やらないと早く進み過ぎて不発に終わる。その装置を作るのにアメリカ政府が秘密裏にすごい予算を使って、プルトニウムの原料を作るために1942年の12月2日からシカゴでずーっとやってきたんですよ。

1942年の12月から原料作りが始まって、やっと1945年の8月9日のその前の7月16日に、完成したプルトニウム弾を使った。プルトニウム弾はフアットマンと言われたんですけど、丸い重い、すごい巨大な奴。リトルボーイより規模は大きい。もちろん爆発力、破壊力も大きいし、たちの悪さを考えたらもう広島と比較にならないぐらい恐いものなんだけど。それを正確に、うまい具合に落とすために、1945年の7月20日から8月14日まで全国津々浦々に模擬爆

弾と言ってパンプキンと呼ばれたものを509 混成軍団が落としている。

つまり、広島と長崎だけが原爆と言うんですけ ど、そうじゃなくてニューメキシコから始まって、 後は大阪、福島、新潟と、全国津々浦々に49発 も落とされて、それを8月14日までやって、愛 知県の春日井とか、今の豊田、昔の挙母(ころも) に落として、それで朕と言う人がラジオ放送やっ て、一応そこで線引きを、どうでもいい線引きを した。それが原爆投下の歴史なんですよ。だから 広島は人類史上最初の原爆じゃないんですよ。原 爆としては2発目だし、模擬原爆も視野に入れる と8月6日前に40発も落としている。

なんでここをつなげないのか。僕はつなげた方が伝わると思う。なんでアメリカのニューメキシコ州で行われた1945年7月16日のプルトニウム弾を使った犯罪の風下にいた人たちとつなげないのか。ニューメキシコ州の人たちも、今も2世、3世もみんな健康障害が続いていて同じ課題を抱えているんですよ。なんでそこをつなげないのか。なんで元祖でなきゃいけないのか。元祖じゃないよ広島は。

だけど広島は大きく注目されている。それは注目されて、言語的に力を持って、僕らが使えば意味があるけど、でも排除というか、線引きは逆効果だと思う。もみじ饅頭の問題に似ているんですよ。うちが元祖だと言って。どうでもいいじゃん、誰が最初に作ったなんて。

人類史上最初のってことに観光資源の意味があると思う。それに拘っている。そうじゃなくてつなげなきゃいけない。広島と長崎だけで何かが完結しているわけじゃなくて、その線引きに意味があるんじゃなくて。アメリカ国民も自国の政府に被曝させられて、騙されて、それで広島と長崎が戦争の演出のパフォーマンスとして使われて、アメリカ国民もずーっとそれに惑わされてきた。

アメリカ国民はムチャクチャ被曝している。100基以上の原発が結局作られた。アメリカ国民の騙されている度合いと日本国民の騙されている度合いはほぼ同じなんですよ。だからそこを共有して見抜く必要がある。僕はそれをみんなと一緒にやりたいのです。

#### ■第二次世界大戦の時間軸は逆

被爆者が僕らに手渡している体験はすべて貴 重なもの。その立ち位置から見つめて初めて分か る。でもそれを語り継ぐだけでは、多分、この7 0数年の間に積み重なった詐欺を解体すること はできない。今のアメリカはトランプと言う人が 大統領。多分再選すると思うけど、でもそれでい いんじゃないか。民主党よりも分かり易くてね。 トランプの前、ある意味トランプを生み出したと も言えるオジャマ大統領。そのオジャマ大統領が 広島に来やがった。その時僕は通訳をした。同じ 部屋にいたら張り倒していたかもしれなかった けど、その時は電波を通じての通訳だった。もう あんな演説、今思い出しても吐き気がする。9割 の日本人が良かったと言っていたが、それは9割 の日本人の頭が腐っているのだ。あれほどたちの 悪い詐欺演説はなかった。何を言っているかと言 うと、広島と長崎で原爆が投下され、それで戦争 が終わったという定説の美文。「広島と長崎で残 酷な終わりを迎えた第二次世界大戦」、そういう ことを言っている。

第二次世界大戦の時間軸は逆なんです。原爆を 投下して、それでアメリカ国民を騙くらかして、 原爆は必要だった、正しかった、と。粉飾決算、 予算を使ったこともお咎めなく、それが通るよう な社会にしなきゃいけないから、巧妙にスケジュ ールを組んで。ウラン弾はすぐにできるから単純 だし、無駄も多いけどウランの濃縮さえやれば広 島のような大量破壊兵器はできるけど、プルトニ ウムはもっと手が込んでいる。なんでプルトニウ ムをわざわざやるかと言うと、ウランは天然資源 だからやっている内になくなっちゃう。でもプル トニウムは人工的に作るところまでいけば増や せる。だから、福井県に高速増殖炉がある。高速 増殖炉の増殖は入れたプルトニウムより出てく るプルトニウムの方が多い。人工的に増やせるの がプルトニウム。プルトニウムを作らないと10 0年、1000年の世界支配計画が成り立たない。 ウラン天然資源を頼りにしていたらなくなっち ゃう。そういうところまで見通していた犯罪組織 がマンハッタン計画をやって、アメリカ国民を騙 して、プルトニウムまで作った。

戦争を早く終わらせるんだったら、さっさとウラン弾2発作って、それでベルリンと東京に1944年の夏でも、1943年の暮れでも落としちゃえばいい。それで大日本帝国とヒトラーは終わるでしょう。やればいいじゃん。でもやらないんですよ。

なんでかと言うと戦争を終わらせることに何の興味もない。儲けること、世界を支配することに、その飛び道具を手に入れて、後は自分たちだけが全部をコントロールできる。それを狙っている連中がプルトニウムを作った。第二次世界大戦のあのスケジュールを真に受けて見ていると分からないことです。

広島と長崎で線引きをしなきゃいけない。広島と長崎で使われた原爆は同じじゃない。同じ呼び名で原爆ですが、歳時記を引くと"原爆の日"と出てくる。歳時記を引くとむかつきますよ。"原爆の日"と引くと「8月6日及び9日」とある。一緒にするの?原爆の犠牲者数も合計して一緒にされている。同じじゃないでしょ広島と長崎、全然違うんですよ。長崎とニューメキシコを一緒にするのなら分かるよ、同じプルトニウム239だから。長崎は原爆、核兵器開発の本流。広島はちょっとパフォーマンスで使ってみたんですよ。技術的に違うんですよ。例えると気持ち悪いけど、広島は黒電話で長崎はスマホ。それぐらいの技術の違いがある。

本当に何をやろうとしているかと言うと、長崎 弾、ニューメキシコ弾。広島に原爆が投下された のは、数えると、ウラン弾としては人類初という か唯一。核分裂の連鎖反応を使った装置と考える と広島は2発目、ニューメキシコが一発目。

長崎は3発目。じゃあ4発目は、みなさんどこで使われたでしょう?1946年の7月1日、ビキニのクロスロード作戦。ニューメキシコからも広島・長崎からも1年も経っていない。しかもそれは大分延びて、すごく延びてこうなった。次の原爆を実験と称して、結局実験だろうと本番であろうと同じことですから、出る放射性物質は同じだし、破壊力も同じだし、たくさんの人が住んでいるところでやるか、人間以外のたくさんの生き

物の下でやるか、結局全部環境に出るわけで、実験と実際に使うのとは同じです。実験と言う線引きも詐欺。

クロスロード作戦を何時やろうかと、アメリカ 政府の内部文書を色々調べてみると、内部で提案 がストラウスと言う軍人から出たのは1945 年8月16日、玉音放送の翌日です。次やりまし ようということで、マーシャル諸島でやる。全面 的に協力してくれる日本の連中から米軍が沈め なかった軍艦をみんなもらって、それを引き摺っ て行って、アメリカの軍艦も並べてビキニでやる。 軍艦に対して使うという名目で、もう次の商売に 入っている。それがまた後に発表になって、結局 トルーマン政権の中で抵抗する人がいて、だから 期日が延びて延びて1946年の7月1日になった。

それが人類4発目。じゃあ5発目は何時かと言うと、クロスロード作戦の中で、今度は落すんじゃなくて。4発目を1646年7月1日に落とした飛行機は、長崎の原爆投下の時の撮影班。同じ509混成軍団のB29のメンバーの同じパイロットたちが、今度はビキニで同じ仕事をしている。だから継続している。戦後とか、戦争は終わったとかは関係ない。線引きは幻想。何も終わっちゃあいない。

よくね、ノーモア・ヒロシマとか、長崎に行くと「長崎を最後に」とか言われるけど、遅いよ!「長崎を最後に」と言えたのは1946年の6月末ですよ。今言ったって現実逃避にすぎない。どこが最後。ずーっと続いているんだよ。「2度と」って馬鹿じゃない。100度と500度2000度とやっている。

そういう継続する中で5発目は海中なんです。 ビキニの、世界で最も美しい海、最も貴重な生体系を1946年の7月にすべてを破壊して全部被曝させた。自然遺産なんてもんじゃないんですよあのビキニの環礁は。それを一つは落して、5発目は海中でやって沸騰させた。そういう中で僕らは生きている。だから被爆は遠いとか、自分は関係ないとか、自部は被曝していないと言うのは幻想に過ぎない。みんな被曝している。

#### ■『原爆の図』に引き込まれて紙芝居の道に

僕はミシガンという所で生まれ育った。ミシガ ンで一番大きい街はデトロイトですけど、デトロ イトの風上にモンローと言う街があって、そこに 原発が作られて、原発の名前はフェルミ原発。フ エルミと言うのはマンハッタン計画の中で物理 学者として最初のプルトニウムを作る炉を建て た人。そのフェルミ原発が1966年に、僕が母 親の胎内にいた時にメルトダウンしている。高速 増殖炉なんです。なんでそれが大きく話題になら なかったかと言うと奇跡的に爆発しなかった。だ から一応中でメルトダウンしてメチャクチャに なって漏らしてはいるけど、大量にボーンと、誰 にでも確認できるように出なかったから。しかも その炉は電気を作るためと言いながら、実は高速 増殖炉だからプルトニウム作りの炉だった。高速 増殖炉はみんな核兵器のプルトニウムを作るた めにある。福井のもんじゅもそう。日本の核開発 の要なんですね。

そういう炉が僕が母親の胎内にいる時にメルトダウンしている。デトロイトの一般のビナード家みたいな部外者が知ったのは5年後。知った時にはもう誤魔化されていたんだけど、でも特定秘密ではない。誰でも調べられる。ということは僕はその中で生まれ育って、大量な、みんなが凄まじい健康被害を背負わされるような被曝にはならなかったけど、でも被曝になる。それにフェルミ原発はエリー湖の水を使っていて、エリー湖で泳いで育っているから僕も被爆者。被爆者に決まっている。被爆者じゃないというのが錯覚。

日本の国民一億もそう。自分たちがそこに線引きをやったら自分たちの現実逃避のために役立つかもしれないけれど現実じゃない。そういうことに気付くためには、僕は日本語に出会わなきゃいけなかった。日本語に出会って、広島の人たちに教わらなきゃいけなかった。長崎の人たちにも出会わなきゃいけなかった。

じゃあ、今自分に何ができるか。もちろんできることはいっぱいある。よく言うよね、何か表現活動している人とか、「私は歌しかできない」とか。いや投票しろよ。できることはいっぱいあるよ。金稼いで誰かを当選させるとか。いろんなことができる。詩人でも何でもできる。何でやりたいと

思う。

多分、僕が強制送還されるなら上関で捕まって、 アウトというふうになるかもしれない。山口に行って、上関町あるいは祝島の人たちと体を張って 止めるのも大事。あるいはもっといいのは広島の 中国電力の本社に入るのがいいね。そこで止めた 方が効果的かもしれない。あるいは一番いいのは 永田町のあの伏魔殿に入って止めるっていうの もいいね。そういうのは市民ができることだし、 僕もやれることは何でもやろうと思うんですけ ど。

でも自分が文学やってて、特に子どもたちから体験できる作品を作ろうとしてて、それがプロパガンダを作るわけじゃないし、自分のメッセージのために描くわけじゃないけど、でも自分が現実を見つめ、ピカとピカドンを造語した人たちと同じように、何が起きているか、と捉えることができれば、それを語ることもできる。

今日これから紙芝居を見ていただきたいと思いますが、紙芝居は僕にとって本質を探りながら作る作品です。東京大空襲の体験者、奇跡的に1945年の3月1日の未明から始まった、あの地獄を体験した人とも出会って話を聞いているので、東京大空襲と広島原爆投下、長崎原爆投下を比べると、その時の修羅場はどっちが酷いとか、どっちが恐ろしいとか、僕はあんまりないと思う。もちろん瞬間的にピカーッと衝撃波が来るとかの現象はちょっと違うけど。でもあの火の海の恐ろしさって、死者の数で言うと東京大空襲の方が圧倒的に多い。一夜にして焼け出された人たち。

だから東京大空襲を語る、広島、長崎の原爆投下を語る、ドレスデンの空襲を語って、その共通点はいっぱいある。でも、僕が広島を語るとしたら、どこが広島なのか、どこが僕らと今つながっているのか、ということを、この紙芝居を作って行く中で掘り下げた。

僕を導いてくれたのは丸木俊さんと位里さん、 二人の画家。紙芝居を作り始めた時は2人ともあ の世に出かけられた後だから、新たに絵を描いて とか、俊さんに猫をもう一枚描いてとか頼めない。 でも『原爆の図』という素晴らしい膨大な、広大 な作品の中に、語る必要な絵はすべてあった。俊 さんと位里さんは原爆と原発は同一のものであ るとずーっと語ってきた。『原爆の図』の画集を見 ると、原発って俊さんが描いていると思うのです けど、戦争の時に広島と長崎で原爆が使われた、 戦後になって原爆が原発に化けて出た、と書いて ある。それが本当なんだ。

だからこの作品はもちろんストーリーは広島に根付いているし、ここで語られる体験は1945年の体験なんですけど、でもつながっている。今僕たちが同じことをされていることも、ストーリーの中に息づいていると思います。

随分前置きが長くなりました。時間をすべて費 やした、もう後貯金はない。これから紙芝居をし たいと思います。

僕は紙芝居に出会わずに育った。22歳になって日本に来て、23歳になって日本語を一生懸命、池袋図書館で児童書コーナーで学んでいた。毎日毎日絵本を読みに行っていた。ちっちゃい椅子だから腰が痛くなってくるんですけど、ずっと絵本ばかり読んでいた。最初は不審者ですよね、完全に。でもだんだんと子どもたちとも仲良くなって、それで「お話しタンポポ」という会があることを知って、子どもしか参加できないのですけど、図書館のスタッフの親切で、マーサーは日本語年齢が低いから、と。それに参加したら、絵本の読み聞かせの後に、こういう木の箱が出てきて、何だろうと思ったら、扉が開いて舞台になって、それで山姥(やまんば)が出てきて凄いことになって、それが紙芝居の初めての体験です。

『原爆の図』に出会ったのはそれから5年経って。『原爆の図』を前にした時に、ちょっと紙芝居とつながる感覚を覚えた。紙芝居は強烈に人を吸いこんで巻き込んでみんなで共有するというか、みんなで体験する。『原爆の図』もみんなでっていうか、向こうのみんな、絵の中にいる人たちを見つめあっていると、自分が引きずり込まれて、傍観者、部外者じゃなくなる。そういう巻き込む力が共通していると思ってこの紙芝居を作ろうと考えたのです。

その時は無知ですから『原爆の図』があればで きると思って、編集者も騙して企画を通した。で もやってみたらなかなかすぐにはできなくて、ず ーっとやってて、3年位経って、「これ結構手強い」 とベテランの編集者に言ったら、「まあね、誰もや ったことないからね」と言われた。「どういうこと ですか?」と聞いたら、紙芝居の歴史において、 絵が先にあって作られた紙芝居はこれが初めて、 だと。これから他の人がやればいいなと思うし、 僕ももっとやっていきたいと思っています。

では紙芝居のはじまり、はじまり



この後の紙芝居『ちっちゃいこえ』の実演の様子の報告は省略いたします。 是非、紙芝居『ちっちゃいこえ』の実物をご覧ください。

#### 活動交流

- ① 朗読劇「ヒロシマのある国で」(岡山「被爆2世・3世の会」スリーピース)
- ② レポート「ニューメキシコ州を訪ねて」(京都「被爆2世・3世の会」・守田 敏也さん)
- ③ レポート「DuPaul 大学(アメリカ・シカゴ)で行った特別授業」(神奈川県原爆被災者の会二世支部・森川聖詩さん)

はそれぞれとても貴重な発表、報告でしたが、編集の都合上、本報告書での掲載は割愛させていただきます。



### 分科会2の発言録「被爆体験の継承と仲間づくり」



#### ■平 信行さん(京都「被爆2世・3世の会」)

京都「被爆2世・3世の会」でとりくんでいる "被爆体験の継承"を本にして出版する準備を進めています。どこの地域でも「被爆2世・3世の 会」が親である被爆者の体験を、あるいはそうい う世代の体験を語り継ぐとりくみを何等かの形でされているわけですが、京都ではその一つとして、被爆者の方から被爆体験のお話しを聞かせていただいて、それを会報別冊の文章にして会員に配布したりホームページに掲載して誰でも見れるようにしています。このとりくみを2013年からコツコツやってきて、これまで77人の方から体験を聞かせていただいてきました。

最初はそこまでのことは考えていなかったのですが、77人位になるといろんな方から本にして出版してはどうかとか、或いは本にして読ませて欲しいといった要望が寄せられるようになり、それでは手掛けていこうということになりました。本当は今年の春頃から議論しているので、今頃はここに現物を積み上げて「これです!」となっていたはずなのですが、いろいろな事情からスムーズに進まなくて、本格的とりくみはこれからになっています。77人の体験を一冊にまとめようとするとあまりにも厚くなって無理ではないかという判断で上・下2巻に分けて発行することになりました。被爆体験の聞き取りは100人位はずっ一と続けることにしていますので、今77人ですが、同時平行でこれからも続けていくこと

を前提に、上巻50人、下巻50人という設定に しています。

発行部数は1000冊程度が妥当なのではと考えていますが、そうすると1冊当たりの価格が2000円ぐらいになって結構高くなるのですが、全部数完売できる計算でいます。それでも初期費用は必要ですので、それは会員の拠出で賄っていく計画を立てています。

本のタイトルは「会」の中で議論して『語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心』としました。被爆者が単に語る本という意味よりも、2世・3世が主体になって、主人公になって後世に語り継いでいく姿勢を示そうということでこのタイトルに決まりました。

これから本格的に構えていかなといけないのは、被爆者のみなさんは、まさか自分の証言が本になるとは思わずに語っている人がほとんどなのですね。いざこのように出版するとなると快くOKしていただけるかどうか気になるところです。そこはお一人ずつ丁寧に趣旨を説明してご了承いただくことをこれからやっていかなければならない。それからこれまで77人の方から被爆証言を聞いていますが、その内11人の方が聞き取りをした後に他界されているのです。この場合にはご遺族に承諾をお願いしていきます。

本にして出版する以上しっかりとみなさんに 普及していくことが必要ですので、それをどうす るか、これからアレコレ検討していくことになり ます。今日お集りのみなさんにも是非ご協力いだ きたいと思います。

#### ■石原 孝さん(岡山「被爆2世・3世の会」)

「被爆2世・3世の会」への入会動機と2世の 思い、ということで、私の思いを話してみなさん に参考にしていただければと思います。

私は広島県の東広島市の出身です。父は昭和2年1月生まれでまだ元気ですがもうすぐ93歳になります。もしもう1ヶ月前に生まれていたら大正最後の世代になっていました。

父も現在の東広島市、かつての西条の出身です。

昭和18年頃まで呉の造船所に勤めていたのですが、急遽三菱造船の長崎に行くことになりました。そして昭和20年の8月、長崎で被爆しました。私が小さい頃は父の被爆体験はあまり聞かされていなかったのですが、小学校に上がってからはよく話してくれるようになりました。

2015年の5月、丁度戦後70年の年、父の 米寿にもあたり、元気なうちに父と一緒に長崎に 行っておこうということになりました。父と私と 私の妻、そして私の妹の4人で長崎に行くことに なりました。長崎では父が被爆したという場所に も連れて行きました。父が被爆したのは長崎市立 山町という所で爆心地から2.5<sup>\*</sup>』位の所でした。 父は昭和20年の6月頃に勤め先が三菱長崎造 船所から長崎県警に転じていました。8月9日は 非番で長崎県の警察の寮にいました。

地図を片手に父の被爆した現場を訪ねていきました。場所は長崎の図書館の隣、今は長崎警察署立山交番付近ではないかということです。当時、実はその隣が立山防空壕で、そこに当時の長崎県の防空本部が設置されていまして、そこは今被爆現像物に登録されています。長崎県の知事室とか参謀長室などがありまして防空監視隊本部が設置されていました。空襲があった場合には幹部が集まってそこから指示を出したていた。そういう所で父は被爆したのです。1945年の8月9日、長崎県知事が防空本部に部下を招集して会議を行おうとした時に原爆が投下された、ということが立山防空本部跡に記載されていました。

私もそれまで話には聞いていましたが、実際に 現地に行ってみて、父も当時のことを思い出した のでしょうか、立山交番に立ち寄って交番の方と いろいろ話をしていました。

父は、原爆が投下された瞬間、建物のレンガの 下敷きになって意識を失い、胸に大怪我を負いま した。なんとか奇跡的に救出されて一命を取り留 めることができました。それでも救護・復興活動 をしたということです。ほとんどは死体の処理な どで、大変だったということは何度も聞かされま した。その後9月末に実家(広島の西条)に帰っ ています。

それから父の体に異常が出るようになりました。骨を怪我しているということで肺浸潤となり、

髪の毛も全部抜けて、家族からは「一体どうしたのだ」ということになり、親兄弟は多いのですが、父だけはもうもたないだろうと言われました。実家は農家だったので、離れで療養生活をすることになりました。療養生活は2~3年続き、そこから奇跡的に回復したようです。父は今も健在で、もうすぐ93歳を迎えます。

2015年の父との長崎への旅は、父の希望を 叶え自分や家族をあらためて見つめ直す良い機 会だったと思います。そして平和な70年、戦争 のない70年を実感することにもなりました。父 はよく無事でこれまで生きてこられたなと思い ました。

そういう思いの中、2015年10月24日、 岡山「被爆2世・3世の会」が結成されることを 知り、とりあえず行ってみようということで参加 しました。「会」結成の趣旨は3つ提示されていま した。①被爆者の被爆体験と自らの体験を継承し、 被爆の実相を明らかにして核兵器と戦争のない 世界の実現をめざす、②県内の被爆2世・3世の 交流をはかり、平和活動をめざす、個人・団体と のネットワークを構築します。③被爆の健康被害 に着目し、自らの健康問題や放射能の遺伝的影響 についての学習調査活動にとりくみます。これを 聞いてなるほどなと思いました。私自身も年齢を 重ねてきていて健康には自信がなくなっている ことをふと思いました。また「会」の趣旨に文化 活動のあることを聞きまして、4年前賛助会員に させていただきました。

私としては長崎への旅とそれと「会」発足のタイミングが重なりました。私がこれから生きていく上で、このような「会」に参加して、みなさんと交流しながら、平和活動を、今の日本の状況もふまえて活動していくことに大きな意味があるんじゃないかと思い、「会」に参加させていただきました。昨日も京都の守田さんのお話しでアメリカ・ニューメキシコ州の核被害者の話がありましたけど、日本だけじゃなくそういう実態のあることを初めて知りました。グローバルなこともみなさんと一緒に学習しながら知識を身に着けていき、少しでも平和な社会の実現のために貢献できればなと思っています。

#### ■今井雅巳さん(岐阜被爆2世・3世の会)

岐阜では昨年「2世・3世の会」を立ち上げたのですが今も2世会員は3人だけです。なんとか人数を増やそうとこのような企画「被爆2世として『平和な未来』を若者に」を考えました。これを毎日新聞が大きく取り上げてくれたのですが、残念ながら岐阜では毎日新聞を読んでいる人は多くありません。実は新聞自体、年寄りしか読んでいなく、若い人はほとんど読みません。これではPRにならないので、11月24日の企画に何人位来てくれるのかは分かっていません。いろいろな平和活動をやると集まるのは禿と白髪(私自身、禿と白髪ですが)ばかりで、どんな会合へ行っても同じようなメンバーばかりがあちこちへ行って集まっているだけです。若い人の参加を何とかしたいと思っています。

ところで戦争を始めるのはいつも年寄りなのですね。先の戦争を考えると明治生まれの人が戦争を企てて、大正生まれの人が兵隊になり、昭和生まれの若者が特攻隊員にさせられました。戦争は必ず年寄りが始める。自分自身も年寄りになってきたので、その責任として、若い人たちに平和な未来をちゃんとつなげていくために過去の問題にもとりくむ必要があると考えています。

第1回目の企画を考えるにあたり、難しい話ばかりでは駄目なので、昨日のアーサー・ビナードさんの講演のように楽しい中に考えさせられるようなこと。たとえば、2世の入君さんの奥さんがピアニストで歌手、これまで何度も被爆ピアノで演奏会をしていらっしゃるので、そういうことも加えて考えていきたいと思っています。

11月10日~11日と北陸・東海被爆者の集いがあり参加してきました。被爆者の方は大変意気軒昂で、それを見ていると1世の方が元気で2世の方がくたばっているのではないかと思うほどでした。やはり1世の方は自分が被爆したという強烈な体験を持たれていますが、2世は活動を受け継ぐと言っても自分自身の体験ではないものですから、モチベーションが低いと思いました。

この集いでは岐朋会(岐阜県被爆者の会)の木戸季市さん、日本被団協の事務局長もされている方ですが、木戸先生が記念講演をされました。その中で、「被爆者として最後の仕事は何か?」とい

う問いかけをされ、「子どもたちのために何かを してやらないといけない。それは何かというと、 2世の体に何が起こっているのかということをち ゃんと記録するということ。『2世の生育記録』を ちゃんと残すことが被爆者の最後の仕事です。」 と言われたのです。

そう言われるとこれは確かに大事なことで、森川さんの本などはまさにそういう形だと思うのですけど、2世の健康状態を生まれた時からちゃんと記録し、放射能の影響はどうなのかということの客観的な記録がとても大切なのではないでしょうか。

私の場合、父も母も既に亡くなっていますけれど、たまたま母が記録魔と言うか、膨大な日記を残していました。母が亡くなった後に調べてみると30冊ぐらいの育児日記が遺されていたのです。それを基にして、自分自身の生育記録を今まとめようとしています。思い起こしてみると、小学校、中学校の頃は元気な子どもだったのですが、高校生の時に原因不明の体調不良になりました。県内のアチコチの医者やら名古屋大学病院まで行っても原因が分からないと言われたのですが、ある医者から「甲状腺の異常がある。」と言われました。

その時は甲状腺の異常ということで治療を受けたのですが、今思うと、チェルノブイリの子どもたちはほとんど甲状腺障害ですよね。それで自分の体内にも放射能の影響があるのかなと思い、母の遺してくれた育児日記を読み始めています。

被爆2世として岐阜で集まりをやろうとしてもなかなか人が集まらないのは何故かというと、2世として声を上げても何のメリットもない、デメリットしかない。2世だということによって逆にいまだに差別とか偏見とかの目で見られる。被爆者が闘って勝ち取った被爆者手帳のようなものが2世手帳として手に入るかというと状況的には厳しい。そういう意味でも2世自身の生育記録をきちっと整える。国やABCCは放射能の遺伝的影響はないと意図的に言っていますが、実際はどうなのかということを具体的に示していく。そう考えると『被爆2世の生育記録』はとても大切だなと思っています。

#### ■金子秀典さん(広島県被爆二世・三世の会)

母が直接被爆しています。広島の中心地から北 へ行った楠町という所です。安田学園の卒業生で 挺身隊として針工場に勤労動員されていて被爆 しました。広島は針の一大産地でもあります。

私は長年市役所に勤務してきました。病気らしい病気はしてこなかったのですけど、定年の2年前、58歳の時に、不摂生もあったと思うのですけど、直腸癌になりました。内視鏡手術をする予定だったのですけど、腸の周りに変な物があり、もしそこを切ったら大変なものかもしれないからということがありました。何でそんなものがあるのか、やはり2世ということと関係あるのかと思いました。それと血が止まりにくいとも言われています。癌の再発は今のところあのません。

私は労働組合の運動もしてきました。原爆遺跡 保存運動懇談会の事務局が広島市職労に置かれ ていて、そこで講演とかフィールドワークもしな がら、自分で勉強もして講演などもできるように なってきました。広島の場合、新日本婦人の会が 『木の葉のように焼かれて』という手記を集めら れた冊子を出されています。その人たちの被爆体 験記を学ぶ機会もあります。

京都の、これだけの証言を集めて本にしようというとりくみは貴重なものになるのではと思います。こけをどう継承していくかですが、岐阜の今井さんも言われたように、広島も多分に漏れず若い人がなかなか参加しないという問題があります。たまたま今日は広島から石本直くんが参加していて、彼などが被爆体験継承の年齢を下げていく世代かなと思いますが、彼自身もみなさんの前ではまだ話したことがなくフィールドワークもきちんとしていないので、一緒にやっていけたらと思います。

自分が親の被爆のことを聞いたかということでは、親が語りたがらないという問題があります。私も母の被爆の詳しいことは知りません。母がどんな状態で乗り切ってきたのかは深くは聞いていない。聞いたのは親戚の家が東広島にあって、髪の毛が抜け落ちて、下血するわ、嘔吐するは、そういうことでした。枕崎台風の後に10月に入ってから症状は止まって回復に向かったというのは聞きました。何があって回復できたのかは本人も分かっていません。運よく生き延びられた方

は、そういう毒素が抜ける何かがあるのかなと思 うのですが、その原因はつかめません。

母は12年前に亡くなりましたけど、亡くなる時、突然血液の癌である亜急性リンパ腫になって、11月に発症して翌年の8月8日に亡くなりました。原爆症というのは、いつ、どこから出てくるか分からない。被爆の実相は語れないにしても、体験してきた人の継承は自分たちで行っていく必要があるのかなと思っています。

#### ■吉田真理子さん(広島県被爆二世・三世の会)

私は山口県出身ですけど、父が18歳の時に山口から広島の鉄道学校に行っていまして、そこで被爆しました。爆心地から1.3\*nの所です。建物の中朝食中だったとのことで、爆発の時ガラスが飛んできてそれで怪我したらしいのです。広島駅の方角に逃げて、山口県から父の父親(私の祖父)が迎えに来て連れて帰ってくれて助かっています。

その後結婚して生まれたのが私です。私の幼い頃の健康状態などは『木の葉のように焼かれて』に書かせていただいています。子どもの頃はしょっちゅう鼻血が出ていました。貧血もありました。その度毎に何故なんだろうと思い暗い気持ちになりました。一番ひどかったのは大学入試の時に鼻血が抜けるほどに出て恐かった時です。

4 0歳位の時に脳腫瘍ができました。その時は 親の被爆など全然関係ないと思っていました。手 術して良性でしたので復帰できましたけど、後か ら聞いたのですが、同じ被爆者の息子さんも脳腫 瘍になったと聞いて、私一人ではなかったのだと いうことを知りました。

その後ず一っと経ってから被爆者の話を聞いた時、すごく歯が悪くなる話がありました。私も小学校高学年の頃、歯槽膿漏と言われたことがあって、そんなにお菓子を食べることもなかったし、どうして子どもなのにそんなことになるのだろうと不思議でした。もしかして親の被爆と関係あるのだろうかと今になって思うようになっています。

2011年に退職して、『木の葉のように焼かれて』の編集委員になって、ずーっと関わってきました。『木の葉のように焼かれて』は今53集ま

で出し続けられています。広島に新日本婦人の会ができた時に、やはりどの班にも被爆者がいて、被爆の手記を残そうということから始まったのだそうです。すごいなと思うのは、同じことを毎年毎年やって何になるのか?という声もあったのですけど、それでも出し続けてこられた。それは何故かというと、被爆者が20万人いれば20万通りの被爆があって、それぞれみんな違う人生を歩んでこられた。だから書き遺すことに意味があるのだということで続けられてきました。今はもう被爆者が手記を書けなくなっている人も少なくないので、聞き取りを行って、それを本人が書いたようにするという方法も行われています。

新婦人には新しい会員さんもどんどん入ってきて、若い会員さんもいるのでずーっと出し続けられています。もう終わりかなと思うこともありますけど、被爆者が生きている間は絶対に出し続けられると思っています。

その中から学ぶことも多いです。同じ被爆者でありながら被爆した人たちが地域の人を差別したり、結婚に反対したり、そんな話も今年の手記にはありました。根深いものがあると考えさせられています。

#### ■木原賢一さん(岡山県美作被爆二世の会)

私の父が亡くなったのは今から11年前です。 昭和2年生まれで18歳の時に召集令状が来て、 6月の末頃に岡山も大空襲を受けて、その後片づけをしてから広島の練兵場に行って、そこで被爆しています。父が亡くなった時の遺言のようなものがあります。岡山県の県北には一市五郡の原爆慰霊碑がありまして、その守が被爆者の高齢化でなかなかできないので、2世のお前らでやってくれないか、というものでした。その後2世の人たちに声をかけまして2世でやろうじゃないかということになりました。

平成23年(2011年)に岡山県美作被爆二世の会を立ち上げました。今会員数は15人になっています。「会」ができた当時全国的には被爆二世の会はそれほどありませんでした。一部あったのは福岡と山口と広島、長崎でできていた状態でした。是国的にも被爆者の会がこれから2世をどうしようかとなっていて、その頃の全国交流会に

も参加しました。その頃、2世もじゃあどうすればいいのか悩んでいましたね。被爆者の方たちがどう考えられているのかも2世には分かりにくかったと思います。被爆者の気持ちに寄り添うというのはそう簡単なことではないですけど、被爆者の人と一緒に活動していこう、いろんなことを聞いてどうしたらいいのかを、私たちは考えてきました。

全国的にも被爆者は高齢化していて平均年齢も80歳を超えていて、「もうわしらでは無理かな」ということをみなさん言われていて。じゃあ2世の人たちにどう関わってもらったらいいのかと岡山県の方でも検討されていて、今度懇談会が来月行われます。だんだんと2世の人も自分の仕事が一段落つく頃になって、親がこのように活動してきたことに我々がどのように関わっていくのかを考えるようになっています。やっぱりあくまでほ被爆者の気持ちに寄り添いながら、そして大きな目標の、世界の平和とか核廃絶をめざしていくことではないかと思います。

ただ実際には現実的なところで夢物語じゃな いですけど、切羽積もった問題も感じています。 父がやっていた活動で津山市民平和蔡というの があります。今年で33回目になります。津山市 では市長、市議会議長、教育委員会3者と毎年話 し合いを持つことができるようになっていまし て、これは父が残してくれた賜物なのですが、そ れに対して私も協力させてもらおうとこのよう な平和活動に関わっています。戦争を知らない子 どもたちが非常に増えていて、戦争というものが どのようなものか分からない、被爆についても原 爆についても同様に。ということでだんだんと継 承もできなくなっている現状を踏まえてこうい う活動をしています。お陰様で津山市から全面協 力をいただき、このような活動ができています。 この活動は全国的にも珍しいと聞いています。

私が被爆2世ということで、中学校などから話して欲しいという要請があればできる範囲でお話しさせてもらっています。できることを一つひとつ積み上げて行くことが大事です。

これから全国的に一つの「2世・3世」の組織ができれば最高にいいのではないかと思います。 そうすれば風通しもよくなるし、話がしやすくな るじゃないかという気がしています。

#### ■太田美佐江さん(岡山県美作被爆二世の会)

私の父は18歳の時に広島にいて原爆に遭い、 頸動脈が切れてすごい出血をして昏睡患者とい われていたそうです。その時丁度軍医がいて鉗子 で血を止めてもらい、一命を取り留めて回復した そうです。秋の終わりには歩いて帰ってきたのだ そうです。ですから18歳、19歳と言うのはす ごい生命力があって、人間って生きれるものだな あと、私もこの年になって常々思っています。父 は病気もしないで、とても元気に過ごしていまし たが80歳になる前に肺癌になりました。その時 父が言ったのは「うちの家系は癌になんかなる家 系じゃないんじゃ、これは原爆のせいじゃ」と言 ったのを憶えています。肺癌になったのですけど、 「わしは治療は受けん、原爆に遭った時にもらっ た命だから、もう命は使い果たしたから、もう治 療はせん」と言って自宅で亡くなりました。

その時父が言っていたのが、自分が津山市に作った慰霊碑を草ぼうぼうには絶対して欲しくない。してくれとは言わないのですが、草ぼうぼうにして欲しくない、なんとかならんもんかなーと言うのです。それぐらいのことなら、原爆の活動とかはできないけど、慰霊碑の維持位はうちのきょうだいだけでもできるからなと言いました。

私たちはみな元気ですし、今のところ特に異常もないですけど、やっぱり70歳を過ぎるといろいろと大変になってくることは感じていますけど。

#### ■徳永 聖さん(広島県被爆二世・三世の会)

私の母は昭和5年(1930年)生まれで、原爆が投下された当時、学徒動員で祇園町にあった三菱の工場に勤めていました。そこは爆心地から5\*。程度で怪我もありませんでした。終戦直後爆心地から400%の所の本川小学校に動員されて救護活動に携わりました。救護活動と言っても $14\sim15$ 歳ですから主に飯炊き、ご飯を作って食べさせることをし、それが何日か続きました。今、健康管理手当を受けていますが、健在です。

私は高校生の時に高校生平和ゼミナールに参加して、平和ゼミの一番最初の卒業生です。国鉄・

JRに勤め、組合活動もやっています。1993年当時広島被団協の事務局長をされていたのが国労を退職された方で、「もうわしらじゃだんだん活動もできんようになるけえ、ちょっとやってくれやあ」と言われて、碑巡りガイドを頼まれて1993年から始めました。被爆2世で始めたのは私と大中さんが最初だったと思います。当時碑巡りガイドをやるのは被爆者ばかりで、私のような若い者がその中に混じってやるのは大変でした。その内にだんだんとやる人も増えてきましたけど。今は組合の専従になっていてガイドには年何回かしか参加できないのですけど。

国鉄の原爆犠牲者慰霊費が広島駅から 2 \* a離れた所にあります。国労広島地方本部で慰霊式典をやっていまして、遺族の方たちと組合員と、それから会社(JR西日本)からも参加してやっています。今年が 4 7回目でした。私が書記長になってから昔の被爆関係資料を倉庫などで調べたりしていましたら、1947年に組合員に調査したアンケート用紙の綴りが見つかりました。その中には当時のいろいろな状況がリアルに書いてありまして、これは埋もれたままではなく、世に出していかなければならないと思いました。今、慰霊式典で記録を少しずつ出しています。

1ヶ月ほど前、広島テレビから、被爆当時復旧 救援列車を走らせた状況について取材がありま した。今の会社、JR西日本より、組合にある資 料の方が詳しいということのようでした。

8月6日の当日、12時過ぎには広島駅から救援 列車を走らせたという記録があります。

私の母は、数年前からやっと自分の被爆体験を 若い人たちの前で話すようになりました。

# ■宮坂佳世子さん(香川県原爆被害者の会高松支部)

母が今年4月に亡くなり、会には今まで大変お 世話になっていたことと、母に十分してあげられ なかった後悔があり、高松支部のお手伝いをして 亡き母に少しでも喜んでもらえたらと思ったの が入会のきっかけでした。

原爆については、女学校の頃ピカッと光って飛ばされたこと、川には死体が山積みになっていたこと等は何度か聞きましたが、それ以外覚えてお

らず、もつとよく話を聞いておけばよかったと残念でなりません。

母は病院通いをよくしていて、貧血は原爆のせいだと言っていました。2度の癌手術、心臓・腎臓も悪く、最後は腎不全で亡くなりました。

私も仕事をしていた関係で、被爆二世健診は3 年位前に一度試しに受けただけでした。これまで 関心がやっぱり低かったのですが、2世の会の集 まりに行って、これはやっぱりやらなきゃと思う ようになりました。まだ私自身の経験が少ないの ですが、これから母の何かが見つかったらまた報 告もしていきたいと思います。

#### ■国広博子さん(香川県原爆被害者の会高松支部)

父は13歳の時、広島で被爆しました。神戸で 生まれましたが、神戸空襲で焼け出され、鳥取、 高松と避難し、最終的に叔母さんを頼って広島へ 行きました。

広島の学校に通い始めて3日目に原爆は投下されました。その日にお母さんが生き埋めになって焼死、その後妹、父親、弟を亡くしました。父は記憶があるうちにと若い時からチラシの裏などに書き留めていました。私が結婚してすぐの頃それを知り、このままではいけないと原稿用紙に清書していきました。私が小学生の頃、父に買ってもらった万年筆が駄目になるぐらいの量でした。父は、自分の被爆体験の話を親しい人にしているようで、それを読みたいという人が出てきて、3部程度コピーし回し読みしていたのですが、次の人に間に合わなくなり、結局知人の協力もあり父が自費出版しました。11年前のことです。『幸福はいつの日か一広島原爆体験記一』というタイトルです。

私は清書する途中、手が震え、涙がとまらなくなり、書くことのできなかった箇所がいくつもあったことを覚えています。親から被爆体験を聞いたことがないという人もいますが、私は物心ついた頃から事細かく聞かされていました。本には肉親との別れが切々と書かれています。自費出版と言っても販売していないので、希望があればどうぞお読み下さいということにしています。

父は医療生協の新人研修の一環で、平和を学ぶ 医療関係者を対象に語り部をしていました。話を した後に「ああだった、こうだったと」と話して くれていたのですが、3年前同行した時「当時の ことを思い出し、改めて言葉にすると胸が苦しく 息ができない。気持ちが沈んで悪いことばかり考 えて、もうしたくない。」と言ったのを機に私が 代わりにするようになりました。20分、30分 でまとめてくれと言われても難しい。まして私に は被爆体験はありません。どうしたらいいものか と考え悩んだ末、被爆者本人の思い、言葉をその まま伝えることが何より大切だと思い、父の書い た本を基に父が一番語りたい肉親との別れを読 んでいく方法を採り、先日も3日目をしました。 先日の語りでは一方通行ではなく、話した後、グ ループで話し合って質問コーナーをつくってく れました。

台本にはない質問の中に「お父さんはすごい状態の中で生きてこられた訳ですが、その原動力は何ですか」というのがあり、そんなことを考えたことがなかったのですが、以前父から聞いていたあることを思い出し、その話をしました。それは、父が父親の火葬をする時、近所のおばさんから火葬を担当する人に渡すお金を預かったのですが、担当の人は受け取らなかったため、おばさんに返しました。おばさんは「正直に真面目にコツコツ努力していくのやで」と教えてくれました。そのことが父が生きる基本となって、これまで生きてきたと思うのです。

4歳下の妹と高松の祖父母に引き取られ、漁師の祖父と一緒に働いていましたが、18歳の時もう一人で暮らせと言われ、製材会社に住み込みで働いていました。その頃何日も深夜に寝込んだことがあり、健康手帳もない、お金もない中で3人の友だちが交代で看病してくれ、回復したことがあります。父の人間性が友だちを呼んだのではないかと思います。その時代、世の中に偏見と差別があり、学歴も財産もない中で母と結婚できたのも、父の人間性を母の家族が認めてくれたからだと思います。

こんな質問もありました。「お父さんは、もう 語り部をやりたくないと言っていますが、あなた は嫌ではないですか」というものでした。それに は、「こんなむごい犠牲の上に今の私たちの生活 があり、そんな犠牲や無念さを無駄にしないため にも、この生活を守るためにも語り継いでいくことが、2世として生まれた私の務めだと思っているので、嫌と思ったことは一度もありません」と答えました。

実は、父は被爆者健康手帳を取得したくても証人がいなくて、なかなか手にすることができませんでした。それでどうしたかと聞いたら、当時の高松市長に手紙を書いているのですね。自分が体験してきたことを綴って。そして高松市長が広島市長に手紙を書いてくれて、それで手帳の取得ができたわけです。そういう人間味のある時代だったのかなと思います。

被爆2世の会について、2世がいるよと聞いた ら声をかけていくようにしています。亡くなられ た日本被団協の伊藤直子さんから「コツコツと頑 張って、焦ったらだめよ」と励まされたことがあ ります。私にも宮坂さんという力強い仲間ができ ました。

今回も、昨日今日とすごい充実した時間を過ごせています。良い方向に向かえるよう頑張りたいと思っています。香川県原水協の福井さんという方にも、とても力になってもらっています。岡山原水協の平井さんのように。福井さんは父の体験記を回してくれています。それも、ただ読むだけでは意味がないと言って、感想を書いてもらうようお願いしてくれています。それを読むと、父のしてきたことが決して無駄ではなかったという思いを深くしています。

#### ■岡村真沙子さん(岡山「被爆2世・3世の会」)

私の父は昭和7年(1932年)の生まれです。 祖父が国鉄職員で広島に転勤していて、その時父は中学1年生でした。建物疎開に出かけていて、午前8時集合で点呼を受けている最中に被爆したということが手記に書かれています。牛田という所に家があって、友たちと助け合いながら家に帰ろうとしましたが力尽きて倒れ込んでしまいました。近所の人が父を見つけて連絡してくれて、祖父が探しに行って助けられたのです。

父は被爆の体験をほとんど私たちには言いませんでした。一応被爆者の会には入っていましたが、熱心に活動していたわけではありません。ちょっと手記を書いてくれと言われて、それで書い

て残した位です。岡山が本籍地でしたので、親戚を頼って父だけが伯父の家にお世話になり、岡山で高校を卒業しています。父の両親と2歳だった妹(私の叔母)はまた転勤で全国を転々としていました。

父は定年までは元気に過ごしていました。祖父は原爆投下の日、息子を探すために随分市内を歩き回っています。その祖父は白血病を発症して80歳で亡くなっています。父も同じく71歳で白血病を発症して亡くなりました。

私も妹も今のところ健康には問題ないのですが、さっきお話しのあった育児記録の話を聞いて、私の母もそれを書いて残してくれていました。それを読むと、私は生まれてすぐに栄養注射のようなものを打たれています。それがすぐに化膿してしまって、生まれて一ヶ月経たないうちにおできに手術をするということがありました。その跡は今も残っています。それからへえ一っと思ったのは、喉が腫れて耳鼻科にかかった時に、お医者さんからこんなに腫れているのに熱が出ないのは不思議だと言われ、ちょっと血液の検査をした方がいいと言われたことがありました。

今回の分科会のテーマは被爆体験をどうやって伝えていこうかということですね。私の住んでいる地域の中学校は2年の時に広島への平和の学習研修があります。行く前に必ず被爆者の方が来て、体験を話して下さる、事前学習を行っています。私も一度聞かせてもらったことがありますが、なかなか来られる被爆者の方によってお話しもいろいろだなと思いました。

加百さんが岡山にも2世の会を作ろうと呼びかけて下さって、私も準備のところから関わってきました。今、3世にあたる3人の息子たちにはどんなふうに伝えていったらいいのか悩むところです。父が15年前に亡くなってしまったので、息子たちは長男が辛うじて生きている父の記憶があるという年頃です。三男などはお爺ちゃんの存在を知らないほどです。お爺ちゃんが被爆者であることは知っていても、そのお爺ちゃんの体験をどうやって伝えていくのかは、なかなか悩むところです。

#### ■平井昭夫さん(岡山「被爆2世・3世の会」)

岡山「被爆2世・3世の会」は2015年10 月に結成しました。

結成のきっかけは「会」の代表をされている加 百智津子さん、同じく事務局長をされている志賀 雅子さんと原水協とのつながりにありました。加 百さんが生活協同組合おかやまコープの現役の 時代、平和行進を県行進実行委員会とおかやまコ ープが共同して進めておりその関係で自治体要 請などご一緒に行いました。2007年に日本原 水協がエジプト・カイロで原爆写真展を行ったと き私は、被爆して焼け焦げた跡の残る、加百さん の「お母さんのブラウス」をお借りしてもって行 き展示。原爆の悲惨さが現地の人に大きな衝撃を 与えました。

志賀さんは民医連のケースワーカー時代一人 の被爆者の原爆症認定却下の相談を受け、認定訴 訟の闘い、「支える会」の活動を通じてともに運動 を進めてきました。2014年平和行進の岡山県 内通し行進を決意。「私は被爆2世です。戦争する 国づくりが進む中被爆2世として孫を被爆者に させない」と歩き通し、2015年のNPT再検 討会議には加百さんと志賀さんは2人そろって 参加、NYで核兵器廃絶を訴えました。訪問した トロント、ユニバーシティー・カレッジではカナ ダの平和団体の皆さんの前で加百さんは「お母さ んのブラウス」を披露し英語で核兵器廃絶を訴え ました。こうした運動をベースに岡山「被爆2世・ 3世の会」の結成に至りました。私自身は被爆2 世・3世ではありませんが、設立当初から関わり 協力してきました。

私は長年岡山県原水協事務局長を務めています。原水協は組織の目的に、核兵器禁止・廃絶、核戦争阻止、被爆者援護連帯を掲げています。高齢化した被爆者に代わって父母、祖父母の被爆体験を継承するという2・3世の会の活動は原水協として重視する活動であり、できる範囲で事務局の活動を手伝っています。

#### ■加百智津子さん(岡山「被爆2世・3世の会」)

母は23歳の時、広島市内で原爆ドームから1 kmほどの近距離にある小網町で被爆しています。 当時、結婚したばかりの母と父は広島県大竹市 の大竹海兵団の海軍宿舎に住んでおり、その日、 母は広島市内での建物疎開にかり出され、宿舎の 人たちと列を作って歩いていたそうです。

私たち3人の子どもがまだ小さかった頃から繰り返し被爆体験を話しました。夏が近づくと「原爆許すまじ」を子守歌のように歌って聴かせました。「あんなことが二度と起きてはいけん」―これは母が決まって言う言葉でした。

母の話では、その瞬間吹き飛ばされ暫く意識を 失っていて、気づいたら辺り一面は火の海で、訳 の分からないまま人びとが逃げる方へついて走 ったといいます。逃げる道すがら地面に倒れてい る人から、助けてください、水をくださいと足に すがりつかれるのを蹴飛ばすようにして逃げた 自分をずっと悔やみ続けていました。顔から胸に かけて火傷を負った母は救護所のような所にた どり着き、敷いてあった筵のようなものに体を横 たえていた時、母を探していた夫(私の父)に奇 跡的に見つけ出され宿舎へ帰ることが出来まし た。その後、火傷痕にわく蛆に苦しめられる凄惨 な闘病生活を送りました。小康を得て妊娠、被爆 翌年と翌々年に生まれた2人の男の子は出産後 まもなく体中から出血し亡くなりました。

私が生まれたのは母が被爆して4年後です。私自身、小学校高学年になった頃からさまざまな病気に罹るようになりました。なかでも、私が被爆者が多く罹るという甲状腺機能障害になり手術することになるのですが、母は"娘がこんな病気になったのは自分の被爆が原因なのではないか・・・"とずいぶん苦しんだようです。

このような生育過程を経て、私のなかに「原爆が二度と落とされないように」という意識が備わったのは当然と言えば当然です。若い頃、高校に勤めており、教職員組合の一員として、広島で行われる原水爆禁止世界大会に代表を送る活動には、新人でありながら率先して手を挙げ参加しました。その後、生活協同組合おかやまコープでは組合員として、また職員として平和活動に積極的に携わりました。被爆2世であることを公にして核兵器廃絶を求める活動をする私に、子どもたちの就職や結婚に不利になるのでは?と言う人も少なからずいましたが、私自身が"そんなことは何も思わなかった"ということです。何ら抵抗なくいわゆる"カミングアウト"をしていたわけで

す。長年、中学校の平和教育や公民館の人権教育 講演会などに招かれ、話す機会も多くあります。

2015年、平井さんはじめ心強い仲間を得て、 念願だった「被爆2世・3世の会」を結成しまし た。結成にあたっては、今この分科会に参加して おられるのですが、当時、私たちより早くから「岡 山県美作被爆二世の会」を作り活動しておられた 木原さん、太田さんにアドバイスを受けるために、 志賀さん(会の事務局長)とともに津山市をたず ねました。その日、メンバーの方が集まって温か く迎えてくださったことを忘れることはできま せん。現在、私たちの会の会員は27名になりま した。そのうち半数近くが被爆3世で、広報担当 を担ってくれています。この「被爆2世・3世交 流と連帯のつどい」もそうですが、私たちがすす める活動の大きな励みになっています。よい仲間 として力を寄せ合わせ、核兵器廃絶を現実のもの にするために、したたかに、しなやかに活動をす すめたいと思っています。

#### ■庄田政江さん(京都「被爆2世・3世の会」)

父は暁部隊に所属し金輪島にいる時に被爆、そ の直後救援のために入市し活動しました。

胃癌、胆嚢がんを患い、86歳で肺癌で亡くなっています。

私は広島市の「語り部伝承」事業に参加し、河野キヨ美さんの被爆体験を引継ぎ中です。河野さんは絵本「あの日を私は忘れない」を出版されています。また海外からの訪問者にも被爆体験を話されています。

私の息子は東京電力原発事故の後、友人知人のカンパで「ブラインド」という映像を自主制作し、広く放射能の恐ろしさを訴えてきています。

#### ■小野司郎さん(岡山「被爆2世・3世の会」)

子どもだった頃、母親に連れられて家の近くを 通る平和行進を見送った記憶はあるものの、親の 被爆については何も話されずに育ちました。父が 入市被爆者であったことを知ったのは私が20 歳の時でした。学生時代には広島を訪れ、平和公 園でのベンチで野宿し、原水爆禁止世界大会へも 参加したことがあります。核問題などに関心があ り、被爆2世として現在こうした活動に関わって います。

(分科会の時間が残り少なくなり、やむを得ず小野さんの発言を途中で切らせていただきました。)

#### ■増田正昭さん(京都「被爆2世・3世の会」)

京都で被爆者の肖像画を描いています。今描いているのは関西美術院の代表で三谷祐幸さんという方ですが、去年の私の個展の時のあいさつで、初めて私も被爆者ですと語られました。それまでは誰にも話していなかったようです。この絵を描いたのは今年の1月なのですが、3月以降は会っていなくて、先月他界されました。語り継ぐ最後の絵になってしまったのです。絵の完成品は見てもらえませんでしたが、作成途中の絵はみてもらっていて、「よく描けている」と初めて褒められました。そのことにも感動しましたが、今年の個展では是非完成品を見てもらいたかったのですが間に合いませんでした。

そのようなケースが結構あります。肖像画をきっかけにさらに被爆者の体験を残し、広げていきたいと思っています。肖像画にしても、体験記にしても、完成を「私だけでなく、子どもたちも待っています」と聞かされています。それに応える気持ちでとりくみを続けていきたいと頑張っています。

#### ■鳥羽洋子さん(京都「被爆2世・3世の会」)

母と祖母と曽祖母の3人が広島で被爆しました。その前に母と祖母は二人大阪で暮らしていて、最初の大阪大空襲に遭っています。3月13日の夜中、一晩中逃げ回り、たまたま持っていた布団を防火用水につけては被り、火の海の中をなんとか助かっています。そのままの格好で列車に飛び乗って広島の親戚のところへ行きました。本当に2度の奇跡をよく生き延びてくれたなと思っています。

広島では1. 2\*n位の所で被爆しています。縮 景園近辺では圧焼死というのが一番多いらしい のですが、母たちは倒壊した家からうまく脱出し、 **饒津神社(にぎつ**じんじゃ)の河原で一晩過ごし ました。母の傷が一番深かったのですが、祖母の 拾ってきたトタンを屋根にして、なんとか黒い雨 をしのぎました。島根県の日費村まで三江線で避 難しましたが、その日貫村で、大阪から駆けつけてくれた叔父から輸血してもらって元気になったのだそうです。

私の父は早くに亡くなったので、母の手一つで私たち子ども3人を育ててくれました。母が人前で被爆体験を語るのは80歳からで、それまでは保険の代理店をしていました。私は高校の社会の教師をしているのですが、母が80歳になった2005年に、私の授業で被爆体験を語ってもらいました。そしたら凄い反響がありまして、授業中は化粧しているような女の子がそれをしまって、食い入るように聞いてくれてくれました。それから何度も授業で話してもらっています。

2005年、私はフランス語を勉強していた京都で偶然ルネ・マイヤーさんというフランス人と出会いました。その人は後で作曲家だということが分かりました。その人との交流が進む中で母の被爆体験を是非フランス語にしてくれと言われました。必死でフランス語に訳し、彼がそれを曲にしてくれたのです。2010年には「ヒロシマを生き抜いて」という邦題でCDになりました。

原版はフランス語なのですが、それを日本語に訳し直し当時の画像もつけ、そこに日仏の歌詞を入れた DVD を作成しました。それを見せたところ、なんと小学生でも理解してくれたのです。母が体験を語った後にそれを見せるというパターンで講演しています。体験を聞いた後なので、子どもたちは真剣に見てくれるようになりました。高校生も真剣に聞いてくれています。

母にはできるだけ長生きしてもらって、二人で語り 部を続けていきたいと思っています。

#### ■松井久治さん(広島県被爆二世・三世の会)

60歳で中学校の教師を一旦退職し、今もまた大州 中学校で、また来たのかと言われながらお邪魔をして います。実は私は大州中学校の卒業生でもあるので すが、最後は自分の母校で退職しました。

父親は青崎という所に住んでいました。 爆心地から 5.5 \* n位、マツダの東洋工業のある所です。 原爆が 落とされて、 橘町の親戚の安否確認のために市内の 真ん中を通っていたので入市被爆しました。 母親は 小学校に運び込まれてくる被爆者のお世話をしていて、こちらも救護被爆ということで被爆者健康手帳も 持っていました。

私はもちろん被爆二世ですが、かみさんも被爆二世で、だから息子二人には、「君らは血統書付きの被爆3世だと」という話をしています。不真面目な被爆2世で、それほど自分で何かやろうということはないのですが、言われたらやるというパターンです。

古田さんが今回、「宇品線をたどる」という企画を起ち上げられて、3回シリーズでこの11月24日に第1回を、宇品から兵隊さんを送り出した波止場で行われます。

それからこういう『広島の先生たちの物語』というD VDを3年前に作りました。結構普及しました。広島市の被爆教職員の会の会長が米田進先生なのですが、その人が天満小学校で子どもたちに話すのを中心にDVDにしたものです。作ったのが時川英之といって広島ではちょっと最近メジャーになってきている監督です。この人が観音中学の時の教え子なものですから、そのつてでお金も叩いて作りました。

これも私がやろうと思って作ったものではなくて、な ぜか被爆者教職員の会に2世も入っていいのではな いかという流れでできたものです。

#### ■藤原 宏さん(岡山「被爆2世・3世の会」)

この会に入る前、平和行進をずーっと手伝っていました。平和行進のことを新聞に投稿ました。投稿を見た原水協の平井さんから「親が被爆者なのか」と声をかけられて、「2世・3世の会」を紹介されて入会しました。

私の祖母が「広島に行こう」と言って孫達を連れて 行ったことがあります。どうして広島に行くのか最初よ く分からなかったのですが、祖父が被爆していること をその時教えてくれました。祖父は被爆といっても入 市被爆です。高級官僚で当時山口県庁にいました。 原爆投下後広島に動員されて死体処理などをしたの だそうです。そのことが原因か、私の今の年と同じ、 63歳で肺がんで亡くなっています。

父親も被爆しています。父も入市被爆です。学徒動員で種子島で終戦を迎えたそうです。引き揚げる時に広島の街を通り、また8月の終わりには広島大学へ戻ったようです。戦争の体験はあまり語らず、ご飯の話、食糧難の時代の苦労ばかり話していました。とてもひもじい生活だったようです。父は68歳で大腸がんで亡くなりました。

福島に親戚がありまして、原発のすぐ近くなのです。

そこで伯母さんの葬式があり参列しました。モニタリングポストがいっぱい並んでいました。50~間隔くらいにあったように思います。畑もありますが何も植えられていない状態でした。

最近、『崩壊学』という本を読んで余計に恐くなりました。今、私達の生活は電気で動いています。電気が失われると原子力は暴走を始めるというのです。もう冷やすこともできない。でもそのことについて政治家は何も言わないだろう、という本でした。私は、崩壊しないように頑張りたいと思っていますが、今の若い人たちはどのように考えているのだろう、と思っています。

#### ■分科会のまとめ(平 信行さん)

みなさんの発言を聞いて、今後お互いに考えあっていけばいいのではないかと思ったことが2点あります。

一つは、みなさんにお子さんがいて、中にはお孫さんまでいて3世・4世まで続いていく方たちがあります。そこにお父さん、お母さん、お爺さん、お婆さんの体験をどう伝えていくのか、というのが結構みなさんに共通した課題となっていました。中には私はこのようにやっていますという方もありましたけど、なかな

かそれはできていないという方もあって、おそらく多く の被爆2世のみなさんが同じような状況にあって、同 じような問題を抱えているのかなと思いました。

もう一つの問題は、国広さんが話された中で、被爆体験を話す機会に「20分でお願いします」とか「30分でお願いします」と時間を限定されることがある。私も経験しています。全体の企画上やむを得ないこともあるかもしれませんが、そういう問題を今後どうクリアしていくのかということです。そんなに手先器用に20分や30分でまとめることなどできるのか。とても具体的なことですけど基本的な問題だと思っていて、お互い考えていく必要があるのかなと思いました。

最後に、岐阜の今井さんがお母さんの書き遺された育児記録をこれからこれ解き明かしていこうとするお話しとか、同じく高松の国広さんがお父さんの体験を出版されたお話ですとか、みなさんが自分のことをお話ししながら、同時にお父さんのこと、お母さんのことを話されました。被爆者のみなさんのことを2世・3世の口から聞き合ったわけです。そういう意味でも貴重な分科会になったと思います。今後も是非こういう機会が引き続き持てるようにしていきたいと思います。次の機会もよろしくお願いいたします。(了)

### **分科会3の発言録「**被爆2世・3世の健康について話 そう、考えよう」



#### ■尾野 進さん(広島県被爆二・三世の会)

広島の場合は、被爆二世の健診や医療費援助などの制度が進んでいませんので、今日はみなさんのお話しを聞かせていただきながら、これからどう打開していくか考えていきたいと思います。

昨日のアーサー・ビナードさんの講演で、「広島」と 言う言葉があんなにいろいろ使われていることを初め て知りました。ますます広島の活動の頑張りが大切だ なと実感しています。

健康問題については、私たちも高齢者になってきていますので、癌なども出てくるらしいですけど。

私個人の健康状態については、特に問題を感じるようなことはなかったのですけど、2年位前から不整脈、心房細動が出てきたこともあって、膵臓のカテーテル治療を受診しました。一応今は収まっていますけど。また白内障の手術もしました。お陰で60年近くかけていた眼鏡から解放されました。

私の年齢からすれば団塊の世代ですから高齢にともなう疾患も出てくると思うのですが、今後はやはり、もっと若い方たちの、被爆3世の方たちの健康問題も考えていかなければならないと思います。健康診断とか、医療補助とか、そういった要望、必要性が切実なものとして強くなってくるのではないかと。その辺りのことも含めて交流できたらいいなと思います。

#### ■大内正子さん(広島県被爆二・三世の会)

これまでは私はすごく元気だなあと思っていたのですが、やはりどんどん目の方も白内障になりかけのような感じになってきて、健康のことも考えなきゃと思うようになりました。神奈川県とかは大変医療費の助成などが進んでいるようですけど、広島は毎年市に要請行動に行くのですけど、結局いくら要請しても、これは国からの補助なので市は関係ないというような扱いを受けています。どのようにしたらもっと市の方がこちらの思いに目を向けてくれるのかな、その辺りも考えさせてもらえればと思い参加しました。

# ■吉川幸次さん(埼玉県原爆被害者協議会「しらさぎ会」)

健康問題についてはあまり知識がなくて勉強させていただきたいと思って来ました。

私も小学校1年ぐらいまではかなり病弱でした。母親が長崎で被爆で、小さい頃から長崎医大病院に通っていました。小学校に上がっても体力がなく、遠足にもつていけないぐらいでした。それで母親から相当鍛えられました。鍛えられると言っても自転車に乗って遠くまで出かけるなどということです。少しずつ体力をつけていきましたが、中学時代まで貧血で倒れたりする経験をいっぱいしてきました。

私が東京の大学に進学し家を離れたのですが、母は心配して細かいところまで健康診断するように言って、その結果を報告するのが義務になっていました。 日赤の看護婦出身でしたので不安材料があったのでしょう。母は戦中、海軍に戦時召集され、その海軍 病院で1945年の12月末日までの4か月半、被爆者を看護救護し被爆しました。私が社会人になってからも、健康診断をずーっとやり、母から注意事項をもらいながらやっていたものですから、大病もなく過ごすことができました。幼少期からそのような経過できたので、非常に体のことに敏感で、ちょっとした変化にも自分で自己防衛しようとするのですね。自然に察知しながら動いていくという、そういう身に着いたものがありました。ただ、母の被爆の影響はないか、その不安はつづいています。

埼玉県は2世の被爆者健康手帳を出しています。 70年代、東京の美濃部都政含めて一連の革新自治 体の時代がありました。埼玉県でも畑知事がやって いました。その当時のことが一つのベースになってい て作られてきたという経過がありました。そういう背景 のもと、私も昨年手帳を申請して割と簡単に交付して くれました。

今年初めて被爆2世健康診断を受けました。その評価は今後していかなくてはならないと思いますが、自分自身で実際に体験しながら考えていきたいと思っています。

#### ■栢菅 (かやすが) 勢津子さん (岡山「被爆2世・ 3世の会」)

私の場合は父が広島で20歳そこそこで被爆しています。陸軍の少尉をしていました。私が幼い頃、父は8月6日になると姿は消すし、帰ってくるとテレビ、ラジオいっさい聴かせてくれなくて、それが不思議でなりませんでした。ニュースで原爆のこととかが取り上げられるのが嫌だったみたいです。一度父に「なんで?」と聞いたことがあります。その時は母が「ともかく思い出すから」と言って、とにかくそういうことは語りたくない。私たちの前でも絶対に語りませんでした。美作に原爆慰霊碑を作る時は結構関わって、いろんな人からの連絡もあったみたいですが。

8月6日、父は少尉として部下を連れて広島に行っていて、8時30分集合だったのですが、少し早いので外に出ていて、丁度建物が背景になっていたから助かったのだそうです。建物自体はへしゃげてしまい、その後気が付いた時にはもう周りから火が出ていたそうです。

父が語り始めたのは年齢も重ねて70歳を過ぎてからです。その頃広島を訪ねています。広島城の近く

で、この辺りに兵舎があった、同じ建物内にいて、トイレに入っていた人がなかなか出れなくてやっとドアを開けて必死の思いで助かった人の話などをしていました。そういう人が今も病気もすることなく、あれから以降はもらった命と思って生活しているという話もしていました。それからやっと原爆について語り出しました。

父はいくら聞いても細かいことはあまり言いませんでした。ただ、自分は軍隊から脱走したのではなく、周りが火の海になったので仕方なしに草津駅近くの親戚の家に避難したのだと言っていました。父が一番詳しく話してくれたのは、母が迎えに来てくれて、山陽本線の一番列車、最初に開通した時の列車に乗って岡山に帰ってきた時のことです。着いた岡山駅では反対に広島の救援に行く部隊がいました。

岡山では背中をひどく火傷していたので日赤病院を紹介されています。父は少尉で最初の帰還だったので日赤でもすごく手厚い看護を受けたようです。ところが夕方になって列車で被爆者が次から次へと送られてくるようになりました。すごい人数でした。しかし病院治療は偉い者から順にされていきました。二等兵などはまともに診療もされない。中尉、少尉とかそういう人たちには個室が与えられました。軍隊とはそういうところだぞ、現代の病院では重傷者を大切にするけど、あの当時は、とにかく軍隊と言うものは、階級で治療の順番から部屋からすべてが決まったのだ、ということを繰り返し話していました。

あの時のことを絵に描く人も多いけれど、自分には 灰色のモノクロの世界だった。モノクロの世界に血と 炎の赤だけがすごく目立った世界だった。ああいう光 景が実際の地球上に起きるとは思わないし、地獄で もあんな光景があるのだろうかという思いをした。次の 世代のお前たちはああいう経験をしないで済むように したい。そのために憲法 9 条があるのだぞ。わしらは 何もものが言えなかったけど、憲法 9 条ができたから、 戦争はしないということを決めたし、それが危ないと思 ったら今はものが言える。父は最後の頃、大分ボケた 頃でもそれを何度も言っていました。

私の次男が亡くなったのですけど、職場が残業代を支払わないなどブラック企業であったことを後で知りました。仕事の配達途中に日赤の前で倒れて、分かった時には大腸癌のレベル4でした。転移もあってスキルス癌だったので入院してから3ヶ月後に亡くな

りました。すごいスピードで進行していて、主には大 腸癌でしたが、膵臓とか肝臓にも転移していました。 本人は将来何かの役に立ちたいということで、新しい 抗がん剤を試すということをやっていました。大腸癌 は小さくなりましたけど、他の場所の癌はひどくなって いって、亡くなることになりました。

#### ■米重節男さん(京都「被爆2世・3世の会」)

母親が広島で入市被爆していますが、直爆ではないし、あまり病気もしていなかったように記憶しています。

私が定年になって健康診断をどうしようかと思っていた時、たまたま広島に帰った際に広島市の広報が目に留まり、そこで2世健診と言うものがあることを知りました。定年まではそんなの全然知りませんでしたので、それなら受診してみようということになり、受け始めたのがそもそもこういうことに関わり始めたきっかけでした。

先日も今年の受診をしたのですが、私の住む地域では京都済生会病院しか2世健診をやっていなくて、そこで受診していたら、最初の時は血圧を測ったデータをなくしたのでもう一回測ってもらえますかと言われたり、今年は検査の中に血圧測定が漏れていたので自宅で測ってもらえませんかと言われたりで、そんな対応でこの病院は大丈夫かなと不安に感じています。

私自身は子どもの頃は喘息だったり、腹下しがよくあったりとかしましたが、中学生以降は比較的元気でずっとやってきました。入院することなど一度もなく。自分はあまり病気とかには縁がないなあと思っていましたけど、「2世・3世の会」に参加していろいろ聞いてみると、自分だけに特別にあるのかなと思っていたことが、他の人にも同じようにあることが分かりました。例えば膿んだらなかなか治らない。子どもの頃は虫刺されとか、できものとかしょっちゅうあって、めぼ(ものもらい)なんかは何回も医者に通っていたとか。今でも虫にはよく刺されます。蚊が寄って来るのです。蚊が近寄って来るだけで痒くなる、そういう体質です。妻の方にはいかないのに。

そうこうしていたら2014年に前立腺の数値に疑いがありますと言われました。両親の家系を見たら癌で亡くなった人はいないし、割と長生きしている人ばかりで、癌にはならないそういう家系だと勝手に思って

いました。職場でがん保険を勧められても断っていました。

一年様子をみた結果、やはり前立腺だと確定診断されました。最初の担当医師はすぐに手術をと言われましたけど、手術は嫌なので化学療法することにして3年は続けました。化学療法は結構お金がかかるのです。副作用がいろいろあると言われましたけど、髪の毛が逆に増えるようなことで済みました。お金のことを考えたらいつまでも化学療法を続けるのはどうかなと思いました。それでもう一度手術の相談をしたら、今はロボットでやります。大丈夫ですと言われました。それで昨年の7月、前立腺を全部取って、一年経った今年の8月に担当医師から根治と言われました。

ロボット手術はたくさん実績がありますと言われていましたけど、昨年の11月にその病院の市民講座で「前立腺手術の今は」という講演がありました。これまでに21件の手術をし、その内の20件は成功だとのことで、私が受けた時はまだ5件目くらいです。病院もいい加減なこと言うなあと思いました。

中学生の時の同級生で今は東京に住んでいる友だちがいます。私が2世の運動をやっていると話すと、「自分も2世や」と言う。中学生の頃は原爆のことを一言もしゃべったことがないのに、実は2世だと言う人が何人もいます。東京では2世にも癌検診とかがちゃんとあって、地域よって大きな格差のあることが分かりました。京都でもやらないといけないなあと思いつつとりくんでいるところです。

#### ■石角敏明さん(京都「被爆2世・3世の会」)

私の父は広島で原爆に遭っています。軍隊の砲兵隊かなんかだったのです。どんな親父かと言うと、8月15日に事情があって綾部市の実家に帰っていて、終戦の玉音放送があったのを聞いて、12~13<sup>\*</sup> はどの距離のある警察署まで行って怒鳴り込んでいるのです。警察署長を呼び出して、22歳の青年が「署長、この放送はデマや、敵による謀略や」と。「だからこのデマは早く取り締まれ」と怒鳴り込むぐらいの軍国青年でした。

終戦前に田舎に帰って来る時は少尉でしたので 列車なども非常に優遇されていました。ところが戦争 が終わってまた広島に行く時は完全にえらい目にあ ったと。綾部に帰ってきた時と広島に向かう時とでは 天国と地獄ほどの違いがあったと話していました。で も原爆被爆の話はほとんどしませんでした。

親父はお酒は強い方で、地域の人があの家にお 礼に行く時は酒を持っていったらいいと言われるぐら いよく飲んでいました。お酒を飲んでいる時に、チラ ッ、チラッとしゃべるんですよね。実はこうやった、ああ やったと。お袋も私のきょうだいもみんな何も聞いて いない、私にしか話していなかったようです。

親父は40年間無茶苦茶元気で、ほとんど病気らしい病気はしませんでした。ところが退職してから2年に1回は病気をして入院するようになりました。最初は喉が食べ物を通さなくなって、胃までパイプを通して流動食のようなものを流し込むようなこともありました。次には肺気腫、肺がおかしいということで入院しています。最後は肺癌にかかって亡くなりました。

私も退職してから、65歳になって糖尿病を発症しまして、ずーっと治療を続けています。薬を飲み、運動もしているのですけどなかなかデータがよくならない。最近は医者から「私も立場があるので、何とかデータをよくして」と言われたりしています。私自身は親父と同じ呼吸器系が悪くなって最後を迎えるのかなと思って覚悟はしています。

私は化膿しやすい体質で、子ども頃は本当に親を 恨みました、悪いですけど。小学校4、5、6年と、傷を すると必ず化膿するのです。そうすると自分で化膿し たところを隠すのです。でも親はすぐ分かるみたいで 「あんた、膿んでるやろ」と。それで膿を掻き出すので すけど、これが痛いのです。するとおふくろが怒るの ですよ、「あんたが怪我をするさかい膿むんや」と。私 からすれば、小学校高学年の頃怪我をせずに遊ぶ なんてできないことですよね。私は、自分が好きでこ んな体になっていいるのと違う、こういう体に産んだの は親の責任やないかと言っていました。親を恨みまし た。昔は膿を出すのは針で突っついて出すのですが、 妹は、「お父さんが針を焼いていたのをすごく覚えて いる」と言っています。

# ■森川聖詩さん(神奈川県原爆被災者の会二世支部)

私の場合は、被爆二世と言っても立ち位置と言うか、置かれてきた環境に特殊なものがあって、神奈川のなかでも特に川崎市は突出して被爆者対策が進んでおりましたし、今も進んでいます。例えば被爆者に牛乳が支給されたりしているのですよ。今はヨー

グルトに変わったりしていますが。もうすでに50年前からそんなことをやっているのは神奈川と言っても川崎市だけです。それから被爆二世健診は医療費補助とともに1971年から実施されていて、その後東京都、神奈川県と広がっていきました。

要は、私の父が川崎市の「被爆者の会」を立ち上げてその中心になっていたという、日本の被爆者運動の先駆けとして、自治体において常に一番早く被爆者援護策を獲得していって、それが神奈川全体に波及し、全国に広がっていく流れがありました。

川崎の被爆者の会(川崎市折鶴の会)の創成期の頃は、私が小学校3年生、4年生の頃でした。今の時代と違って、SMSなんてありません。ですから本当に口コミとか、支援者の人の力を借りたり、手まめ足まめ、そんな感じでやっている父の姿を子ども心に見ていました。ですからみなさんがおっしゃっている、なかなか子どもには語らなかったというのとはまったく違う環境でした。もう嫌と言うほどでした。今となってみれば「ああ、なんであそこを聞かなかったのか」と思うこともありますけど、子ども心には「ああ、またその話か」という感じでした。私に直接話すことも多いのですが、私の家にはいろんな人が来るわけで、政党など支援者の人とか、被爆者の会の人とか、そういう人たちからも原爆、被爆の話は入ってきました。

私はここ数年、被爆体験の伝承にとりくんでいます。 みなさんそれぞれに多くの人の伝承ってありますが、 それぞれ微妙に、目的も与えられた使命も違ってい るように思います。私の場合は、父の被爆者として生 き様を伝承することもだいじなのですが、被爆者運動 家としてどうであったのかもです。被爆体験記のよう なものは世の中たくさんありますが、父の被爆体験記 や被爆証言の特徴は、個人としての思いを語りなが らも、そのことを通じて被爆者共通の思いを語ってい る。その辺りのことも私の本に書かれていますのでよ ろしかったらお読みください。

私の体のことですが、今も毎日、旅行する時にもこんな薬を持って歩かなければなりません。以前は傷が化膿するだけだったのですが、今は毛嚢炎や皮膚炎がいつも体のあちこちにできてモグラ叩きみたいな状態です。それから、皆さんも視力の話をされていましたが、私も幼少の頃から目が弱くてひどい近眼でした。それから非定型顔面痛といって針金を顔の中にねじ込まれているような痛みがあって、なんとかそれ

を軽減するためにコンタクトレンズを使ってみたり、いろいろやりましたけど、結局いい治療法が見つからず、40歳頃にRKという近視矯正手術をしました。

ひとまず眼鏡から解放されて、少し顔面の負担が減ったのですが、5年もすると今度は老眼が出てきました。老眼もどんどんひどくなってまた顔面痛がひどくなってくる。そんなことを繰り返しながら、60歳のとき、眼科の検査で白内障を発症していることがわかりました。白内障の手術って、初めて何の手術もしていなくてやると遠近両用のレンズを入れられるのですが、私のように RK 手術をしている場合はそれができず、どこか1点に焦点を合わせるしかない。そこで私の場合0.4ぐらいに合わせることにしました。そうすれば日頃慣れた街を歩く程度には支障はなく、知らない場所や慣れない場所に行ったり、運転したりする時だけ眼鏡をかける。私は日頃、パソコン作業や読書など比較的近くを見ることが中心の生活ですから、むしろ0.4くらいの視力で充分なのです。

そんなことでずーっとこの人生、健康管理をしながら生きてきました。そこにたくさんのお金を使いながら。

#### ■守田敏也さん(京都「被爆2世・3世の会」)

私の場合、親が被爆した可能性があること、だから 自分が被爆二世であるかもしれないなどということは、 全く知らずに生きてきました。福島原発事故以降、原 発のことや放射線から人々を守ることを活動の主軸 にしていますが、その中で原爆の研究者で、被団協 でも理事をされている沢田昭二さんと話す機会があり ました。戦争時に、父が香川県善通寺にいた陸軍船 舶隊に所属し、原爆投下後に救助命令を受けて呉ま で行っています。呉には海軍基地があって海軍部隊 がいて、陸軍が後詰で来たということで、海軍は広島 市に入って被爆しています。

父は「呉に留まったので自分は被爆しなかった」と 思っていました。それでそのことを沢田さんに話した ら、「呉までプルームは行きましたよ。お父さんがそこ におられたのなら、お父さんは被爆者だし、守田さん も被爆2世ですよ」と言われました。「ああそうだったの か」と思いました。

私は各地を原発に関する講演で歩き回っていて、 京都市内でもよくお話させていただくのですが、父の ことを話した折に、京都「被爆2世・3世の会」から「参 加しないか」と誘われて入会しました。 最初は戸惑いました。私の中で被爆者とは「日本の平和運動にとって一番大切な存在」というようなものでした。それで「私が二世だと名乗っていいのかな」と思ったのです。でもここで断ると私のような立場の人が「被爆2世」と言えなくなってしまうとも考えて、「会」に入らせてもらいました。

ところが今回のアメリカへの訪問で、京大原子炉実験所の今中哲二さんと一緒になりました。彼も被爆二世ですが、「僕は、呉は被爆しているとは思わないな」と言われました。実際に呉の方たちはどうなのかというと「被爆している」という意識はあまり持っておられないようです。だからそのことをどう考えていくのかが今の私の課題です。

結局、どこまでが被爆していてどこからが被爆ではないのかの「境界問題」がそこにある。私はそこに立っていることを自覚しつつ、どう自分のことを発信していくか考え直していこうと思っています。

ただ、自分の実感では、父は59歳で被爆との関連が指摘されている脳溢血で亡くなっています。また昨日、私たちと被爆者の「縁」の話が出ましたけど、それをすごく感じるのですよ。特に福島原発事故以降に、「もの凄く」と言えるぐらい連続的に被爆者、被爆二世・三世に出会ってきているのですね。もちろん偶然にです。もうこれは実感として、何かに背中を押されているとしか思えない。

一つ例をあげますと、『放射線を浴びたX年後』という映画があります。太平洋での核実験と、その場にいたマグロ漁船を追いかけている映画です。その2作目で川口美砂さんという室戸の漁師の娘さんが出演され、被ばく水域にいた漁師さんたちをインタビューしています。その撮影の過程で、彼女のお父さんもまた被爆地帯にいたことが記録された船員手帳が、奇跡的に見つかるのです。何かに導かれるように。お父さんは30代で血を吐いて亡くなったのですが、「大酒飲みだったせい」と言われていた。でも実際は被ばくしていた可能性が極めて高いことが分かりました。

そんな風に映画を通じて奇跡的な体験をした美砂さんが、実は私をずーっと診てくれている気功師であり、友人でもある女性の30年来の親友なのですよ。その方を介して私たちは出会ったのですが、「なんかこの出会い、おかしくない?誰かに仕組まれているよね」などと笑いあいました。

こういう話をすると、「とんでも人間」に分類されか

ねません。西洋科学的にはく証明できないことです。 これをネットに書くと、西洋科学的知識が大事だと思っている方々から「守田さんの言うことは信用しない 方がいい」と言われてしまうので、普段は触れません。 でもそんな風に感じることは実際に何度もある。「被 爆者の方たちに背中を押されてるなあ」という実感が 私には強くあるのですね。

だから、私もやはり被爆2世の一員だという思いもあり、でもやはり科学的な裏付けは大事だし、呉のみなさんがどう思っているかもとても大事なポイントだと思っていて、どう発信していくか、たぶんジグザグ考えながら、歩んでいくことになると思っています。

その上でですが、その気功師さんの診立てでは、 被曝によって血管障害が多く起こっているそうです。 怖いのは脳血管の障害です。それも含めて、被曝に よって身体に起きていること、その遺伝的影響を具体 的につかんでいくことが、被曝被害を越えていく上で とても大切だと思います。

それで私たち京都の会は、二度目の「被爆2世・3 世健康調査アンケート」に挑もうとしているのですが、 このアンケート、最初に森川聖詩さんの身体に起こっ たことを紹介していて、「同じようなことを体験していま せんか?」と問うています。別のページでは被爆者援 護法の下での健康管理手当の対象となっている病名 を挙げています。その中の5番目、6番目に脳血管障 害、循環器機能障害が入っています。しかし ICRP な どを中心とした現代科学・医学では、放射線と体の関 係と言うと、癌しか調べない。でも生活実感的には明 らかにもっとさまざまな障害があるから、被爆者援護 法では対象となっているのですが、そこに「科学的に は証明されていないけど可哀そうだから助けてあげよ う」的な文言が加えられています。でも被爆者にどこ までも冷たい国が、あえてそれを入れたのは、多くの 人が被曝被害の実感としてこれらを感じているからで すよ。それで福島原発事故後にも、脳障害や血管障 害が増えていることが予測されます。どこかにデータ があるのではないか。

私は講演で群馬県によく行きますが、若い方から も心筋梗塞による突然死がたくさん出ていることを耳 にします。循環器の病も多いです。その現実を前に、 リスクをきちんと把握してこそそれを超えていく可能性 が生まれると思います。体に良いことをして、健康を 維持していくことができます。だから現実を直視する 中でこそ、みんなでさまざまな困難を超えていこうと 語り続けています。

命を守ることを最初に語られたのは肥田舜太郎先生でした。「被爆者は癌で死ぬな。それは原爆に負けることだ」と語られ、「少しでも命を長らえるために努力せよ」とおっしゃられ続けた。

一つ福島原発による被曝の症例を紹介しますと、 認知症のような障害を発症される方が結構多い。物 覚えが極端に悪くなる。それで冷蔵庫を開けて買っ てきたものを入れようとすると、すでに同じものがいっ ぱい入っていることを何度か経験した方がおられます。 それでその方を気功で診てもらったら、脳内の血管 障害が見つかりました。幸いにも治療できるそうです。 認知症の場合、一旦失われた機能は今のところ戻せ ませんが、血管障害の場合は気功や漢方で治せる そうです。西洋医学の先生たちは、なかなか東洋医 学を認めてくれませんが、両者のいいところを足し合 わせていけば、放射線で傷ついた身体を治していけ る可能性はもっと大きく広がるのではないでしょうか。

だから諦めずに、「どうせ自分はダメだ」などと言わずに、やっぱりみんなで励まし合い、情報交換しながら治療して、元気な体を取り戻していくことが大事だと思うのです。

原爆の経験では、長崎の秋月先生の経験など、すごく大事だと思うのですね。長崎の病院で、みんなに味噌汁を飲ませ、塩をたくさん入れたおにぎりを食べさせ、反対に砂糖は食べるなと言って、そのことで体を守り抜いた。そういう知恵をもっとたくさん集め、自分たちに起こっていることを客観的に見つめながら、自分たちがよりよく生きて幸せになっていける道を探っていきたいと思います。そのことが福島原発事故で被災された方にとっても重要なヒントになるでしょう。そんなことを思いながら新たなアンケートに取り組みます。ぜひ力をお貸しください。

### ■竹永光惠さん(岡山「被爆2世・3世の会」)

昨日、私の母の被爆体験を基にした朗読劇「ヒロシマのある国で」を披露させていただきました。母は54歳の時にくも膜下出血で倒れて、それから被爆者手帳をとろうということになり、ケースワーカーさんに体験を話したのがきっかけで、朗読劇のようなところまで聞き取りができました。突然くも膜下出血で倒れて、それから77歳まで、介護4でしたけど頑張りました。

最後は施設で亡くなるのですが、最後には白血病の 症状も出ていて、やはり被爆していることが関係して いたのではないかと思っています。

被爆した時、3歳の弟(私の叔父)をずーっとおんぶしていました。弟は小さい頃から気力がないというか、走るのも運動もダメで、勉強も継続できない、なかなか仕事も続かないという状態でした。ずーっとお姉ちゃん(私の母)に頼り切りみたいでした。

ずーっと行方不明になっていて、昔はよく「たずね人」みたいなものがあったらしいのですが、そういうものも出していたのですが、結局分からないままでした。最後に母が倒れた後でしたけど、私も結婚して最初の子どもが生まれた頃だと思うのですが、弟が亡くなっている連絡が入りました。私と母と一緒に、大阪の西成の飯場のそばの川に溺れて死んだということでしたけど、もう亡くなっている状態を見に行きました。本当にちっちゃい、子どものような遺体でした。たった一人で働くことも大変だったろうに、家族の縁からも離れて、よう頑張ったなと思いました。

健康のことで言うと、私の子どもが3人いるのですけど、3人ともみんなアトピーに悩まされていました。 私自身は小さい頃貧血がひどくて、大人になってからはそんなに大したことはないと思っていたのですが、献血の時に行くと必ず引っかかって、献血はできない体なんだということが分かりました。一度ちゃんと調べてもらった方がいいと思いながら、すごく忙しい生活をしていたのでバタバタしていて、「2世・3世の会」ができるまで2世健診にも行ったことがありませんでした。

せっかく会員になってそういうチャンスを聞いたので、3年前に初めて健診を受けることにしました。これまで2回健診を受けていますが、対応がとても冷たいものでした。「何か気になることがありますか?」と聞かれるので、私の貧血のこととか、娘が子宮頸がんになったのでそういうこととかいろいろ話しても、「ああそうですか。それは専門の病院に行って下さい」と言われるばかりなのです。

市民病院がそのような対応をしていてはいけないので、市議会でも、「市民病院で被爆の研修ぐらいしてから携わって下さい」と取り上げさせてもらいました。「よく検討します」ぐらいのあいまいな答弁でした。今では独法化になって、そうした声も届かないような市民病院になってしまっています。医療のことは今県が

中心になっていますので、まとめて要望を出すことが 必要かなと思いながら、みなさんからいろいろ自治体 の様子を伝えていただいていますので、それを参考 に引き続き頑張っていきたいと思っています。

### ■古田光恵さん(広島県被爆二・三世の会)

傷が治りにくいというのは、兄弟姉妹の中では私だけでした。運動神経は幼い頃から抜群だったものですからよく転んで、膝にはいまだに傷跡が残っていて、ミニスカートの頃は恥ずかしい思いもしていました。

私はとっても不思議な経験をしているのです。癇癪を起こした時に、頭の中に別人がいるような感じで、違う人がここにいるという感覚で、私が怒っているのじゃない、これが(頭の中にいる人が)怒らしているのだという感覚がずーっとあって、おかしいなと思っていたのです。それが小学校4年生ぐらいになった時、ある日突然かぁーっときて、私じゃない、私じゃない、私じゃないと言い聞かせていたら、頭の中の奴が「もう止めた」と言って、それでプチっと音がしたと思ったら、ふっと軽くなったのです。本当に不思議な体験でした。あれからは怒ることもなく、

もう穏やかな状態になっています。

中学校の頃も足が速くて、全国大会で80~~ハードルの中学生新記録を出したこともあります。中学2年生の時、突然高熱が出て、それが1週間以上、40度以上の熱が続いて、母もこれは死ぬのではないかと思ったと言います。ずーっと寝てて、歌ばっかり歌ってたそうです。どんな夢を見ていたかと言うと、お花畑の夢でした。吊り橋を渡ろうとしていて、その向こうにお花畑がすごくあって、いろんな人が遊んでいる。「わあー、楽しそうだな。そこへ行こうかな」と行きかけたら、向こうで楽しそうに遊んでいた人たちが、突然鬼のような顔になって、わぁーっと襲ってきて、「来るな!」と言ったのですよ。それでふっと目が覚めて、それからは回復していきました。

熱が下がった後、筋肉リューマチになったのです。 中学校を一ヶ月も休んで高い薬を飲んでいました。 だんだん治ってきたと思ったら、今度は心臓弁膜症 になって運動禁止です。あれだけ運動していた人間 が運動禁止になってもの凄く腹が立ちました。高校 へ進学して、あまり心臓に負荷のかかからない運動 がいいだろうと思って、肺を使う水泳にしようと水泳部 に入りました。水泳部に入ってすぐにどんどん記録が 出るようになって、インターハイで新記録が出て表彰され、新聞に載ったこともあります。どんどん遠征に行くようになって日本新記録を出しこともあります。卒業後の進路で日体大などいろいろなところから推薦入学のお誘いがありましたけど、私は心臓が悪いので駄目です、と言って全部お断りしました。

大人になって、23歳の時、被爆者と関わるようになりました。私が下宿していた隣のお婆ちゃんが被爆者で、原爆孤児を引き取って育てている人でした。ある日曜日にそのお婆ちゃんから、平和記念資料館の下でやっている被爆者救援募金を手伝って欲しいと言われたのです。募金活動に参加していたら一緒にとりくみをしている人から、「あんたは原爆と関係あるのか?」と問われて、「父親が被爆している」と言ったら、「それじゃあ被爆二世じゃ」と言われて、その時初めて自分が2世であることを知ったのです。

被爆者が作った会ですけど「胎内被爆・被爆2世を守る会」1971年頃から活動し始めました。この頃に超党派の国会議員に要請して超党派で2世の手帳を出そう、2世健診をしようと、決議されたのです。その時に東京都議会の近藤都議が被爆者へも優勢保護法適用せよと発言して、大騒ぎになりました。その頃広島でも手帳を出してくださいと要請していましたが、そうすると被爆者の側から「差別につながる」からという理由で反対の声が上がったのです。

広島では、手帳持っていなくても二世健診を受けられるようになっています。どうしてかといいますと、空白の12年というのがあります。12年間の間に親が亡くなってしまっていたら手帳を持っていない。その間に生まれた二世は親の被爆を証明しようがないので、申告だけて受診できるようにした方がいいということになったのです。

原発の問題で、正力松太郎が中曽根康弘と一緒に進めた原子力の平和利用博覧会が広島の平和記念資料館で行われました。そういうこともあって、「あれだけのエネルギーを科学の力で平和利用するのならいいのではないか」という意見が被爆者の側からも出ていました。私は「いやいや原発も核発電じゃろ、原爆は核爆発じゃろ、同じ核じゃ」と言って議論になりました。当時童話「おこりじぞう」を描かれていた児童文学者山口勇子さんとも「おかしい」と話し合っていて、山口勇子さんは、被爆者はあれだけの圧倒的なエネルギーを体で体験して、肌で感じて、それで平

和利用してもらいたいという思いがそこにあるのだから、責めてはいけない、と言われました。そういうことがあって私はこの運動から外れていきました。

定年になって、もう一度と言う思いで「2世・3世の 会」を始めました。

私の子どもたちは少し腸が弱いということがあります。それと、親と同じように蓄膿症手術とかをしたりしています。

放影研が「遺伝的影響はない」と言い続けています。でも遺伝的影響の調査は癌だけなんですよね。 そうじゃないよ、いろんな症状があるよと言って、京都で今検討されているアンケート、私たちもこれを突き付けてやっていきたいと思います。

先日の放影研の公開講座でカチンときたことがあります。それは、ゲノムの調査でどういう病気になるのかは将来的に分かるようになる、でも被爆二世がゲノム調査を受けてどういう病気になるのかを明らかにするのは三世、四世、子孫をちゃんと説得してからでないと駄目だ、ということでした。「子どもが差別されるかも分らんよ」と言っているのです。これには腹が立ちました。これは何とかしてやるぞと。放影研に対しては癌以外の調査もしろと申し入れを出しています。

### ■森川聖詩さん

神奈川県の被爆二世援護策について説明します。 まず医療費の支給。これは神奈川県の場合、「被 爆者のこども健康診断受診証」を持っている人に対し ては年一回案内が神奈川県(自治体)から送られま す。その案内状の表紙には健康診断の内容が書い てあって、それをめくると医療費補助の支給要件、健 診実施医療機関などについて書いてあります。

神奈川県原爆被災者の会二世支部の「2世のみなさんお元気ですか、今年も二世健診を受けましょう」と記されている「呼びかけ文」も同封して送られてくるようになっています。これは本当に画期的なことだと思います。普通こういうものは自治体の発送物に入れてはもらえないですよね。これはやはり、先ほど話したように、私の父を含め、神奈川県原爆被災者の会が築き上げた被爆者運動の力に支えられてできていることだと思います。これは3~4年前からできていることなのですが、このおかげで必然的に会員数も増えてきて、会員の内訳も変わってきています。それまでは何かしら平和運動をやっている人とか、被爆体験伝

承活動をしている人などが多かったのですが、今は まったくそういうことを何もしていなかった人も多くなっ てきています。県の案内の中に入っているので組織 性格についての安心感をもてるからなのだろうと思い ます。

神奈川県の被爆二世健診がいつから始まったかと 言うと、まず川崎市で1971年からできるようになって から始まっています。健診内容は今の二世健診とそ んなには変わらないのですが、その後全国で実施さ れるようになった厚生省(→厚労省)の施策としての 「健診」(「健康調査」)とは趣旨が違っていました。そ れは「被爆二世の健康管理に資するため」と言う純粋 な被爆者団体の運動の要求に沿って実施されてい たものでしたから。

全国の被爆二世健診は1979年、現実には1980年の2月から始まっています。どうして2月になったかというと、私が代表者を務めていた、当時の関東被爆二世連絡協議会が反対していたからです。最終的には押し切られたのですけど。最初は多くの団体が反対していましたけど、まもなく他団体は厚生省の「健診」実施案(正式名称:「被爆者二世の健康に関する調査・研究」)に賛成するようになり、最終的に反対派は、私たちだけになってしまいました。

当時の厚生省が導入した健診も今の厚労省の健 診も基本的なスタンスは変わっていません。健診が 医療保障につながるという考えは今もまったく持って いません。現在の被団協と厚労省の交渉に私も参加 していますが、昔と言っていることがまったく変わって いない。昔、二世健診が導入される時にしつかり反対 しきれなかったことが、今につながっているなあという 思いがあります。あの時点で当時の厚生省がはっきり 言ったのは「被爆二世の不安を解消するためにこの 健診はします」と言うことでした。不安を解消するとは どういう意味でしょうか。私たちは、遺伝的影響があっ て、こういう病気になるのではないか、だったらやはり 医療保障がないと不安だ、という意味だと思いますよ ね。国は違うのです。「遺伝的影響なんかないから大 丈夫、とみなさんに思っていただくためにこの健診は するのです」と言っていました。それにも関わらず当 時は日本公衆衛生協会というところに民間委託して 健診実施医療機関からデータを収集していました。 当時はデータ分析結果まで社会的に公表すると言っ ていたのですよ。

その「結果」は(案)として提示されたのですよ、実 は。被爆二世団体の代表者に対してね。それ、実は 今も持っています。本当に残念なのはその当時高橋 晄正さんと言う、薬害に反対していたお医者さんがい て、「この被爆二世健診のデータだけでも、非被爆二 世と比べて有意差が見られる」と医学的根拠を示しな がら指摘されたのですよ!高橋さんが厚生省との交 渉でそのことをぐいぐい詰めた結果、厚生省はたじた じになって結局、その「遺伝的影響(一般との有意差) は認められない」とする「結果」は公表しないことで合 意しました。今思えば残念なことに、そこにどのような 有意差があったのか、私たちは高橋さんからレクチャ ーしてもらっていないのです。実にもったいないことを しました。データは今も保管しているので、そういうこ とが分かる人がいたら見てもらいたいと今も思ってい ます。今の厚労省も、「健診はする、でも遺伝的影響 は認められないと表明し続ける」という態度です。でも 裏ではデータは蓄積していく。かなり蓄積されている はずです。それは表に出されていないだけで。

神奈川県の被爆二世に対する医療費補助の対象となっている11疾病は、被爆者援護法の健康管理手当の対象疾病をそのままスライドしたものです。ですから神奈川県の被爆二世の医療保障もこの11疾病に該当していなければ補助はありません。私自身のことで言いますと、これだけたくさんの病気を持っていながら一度も11疾病に該当したことがないのです。例えば椎間板ヘルニア、これもだめでした。

それと神奈川県の場合、政令指定都市は別扱いなのですよ。神奈川県と、横浜市、川崎市、相模原市で微妙に該当する病気、該当しない病気が違っているのです。この間私たちがとりくんでいるのは各自治体と面談して、医療費補助の運用などの問題点について要請するようにしています。健診については多発性骨髄者の検査のあることを知らない人が多くいる。神奈川県を例に挙げると、「健診受診証」を持っている人が6、223人いて、626人が実際に受診していて、10人に1人位の割合。その内多発性骨髄腫の検査を受けている人は464人。この差は周知不足によるものだから、もっと分かるように健診案内をして下さい、というような働きかけをしています。

医療費補助で一番問題になっているのは、お医者 さんが必要とされる診断書の記入を拒否される例が あることです。どうして拒否されるかと言うと、横浜市と 相模原市の場合、診断書の様式の説明文に原爆と 病気の因果関係が医療費補助の厳しい支払い要件 となっているかのような誤解を与える文言があるから です。

#### ■吉川幸次さん

埼玉県原爆被害者協議会(しらさぎ会)の理事をしています。被爆者の健康診察の時に2世も受診でき、相談活動も同時にするのが定着しています。でも、指定されている病院は50ヵ所もあって全部はできません。そこで肥田舜太郎先生が基礎を作った医療生協と提携していてやっています。私も初めて参加して、健診を受けるのと同時に相談活動もしてきました。医者との学習会もしながらやりました。いろいろな問題を聞きながらどう対応していくかを考える機会です。相談活動での一例ですが、1943年生まれの方が来ていて、いろいろ相談をしていると、やっぱり差別問題が出ました。本人はこれまで被爆者だと言えなかったのだと。

埼玉県は、肥田舜太郎先生(故人)が培った基盤、 人たち、現在の田中熙巳会長など伝統的に反戦、反 核の先輩方が被爆者といろいろ相談しながら掘り下 げていく。地道にやっているなあとあらためて実感し ています。

### ■守田敏也さん

京都のこれからとりくむアンケート活動、みなさんにも是非協力して欲しいと思っています。これをどう進めるかですけれど、ポンと投げて「さあ書いて下さい」だけでは駄目だろうと話し合っています。それで冒頭に説明を書いだのですけど、このアンケートを通じて、ある種のカウンセリングがなされることが大事なのではないかと思っています。

それでこのアンケートを作るために、被爆体験を受けた方が、どんな病気を被ったのか、できるだけいろいろと知ろうと思って、本や資料をかなりたくさん読みました。その中で、なぜ被爆者の方が自分の体験をあまり語らなかったのか、その理由も見えてきました。

心理学でサバイバーズ・ギルドというものがあります。 「生き残った罪意識」です。原爆投下直後の現場では、水を求められたのに飲ませてあげられなかったことや、崩れた家から助けを求める声が声が聞こえているのに、自分が逃げざるを得なかったことなど、多くの 人々が悲惨なことを体験しました。それで「自分が見殺ししてしまった」という罪の意識を心の底に抱えている方もたくさんおられる。だから癒しのためのヒアリングをするべきだったのですよ。ヒアリングとカウンセリングを、国が責任を持ってやるべきだったのです。ところがそういうことがまったくなされて来なかった。

JRの福知山線事故でも107人もの方が亡くなりましたが、あの事故現場に関わった人の多くは鬱になっています。1両目に乗っていて奇跡的に助かった人を知っているのですが、その人は「奇跡的に生き残ったと言われるのが一番辛い。せめて重傷でも負いたかった」と言っていました。こういう辛さはある種の人間の美しさでもあります。人は生死を分ける場に居合わせると、往々にして助かったことを喜ぶよりも「自分だけが生き残って申し訳ない」という気持ちを抱くのです。だから「それはあなたの罪ではないですよ」と癒してあげなくてははいけない。それは治療なのです。心の病を治さなければならないのです。しかしそういうことが被爆一世に対してほとんどなされてこなかった。

最近になって沖縄で、やっと、沖縄戦を生き抜いたお爺、お婆へのケアが始まりました。過酷な戦場を生き延びた人々には、いまももの凄いトラウマが残っているわけです。それに対し沖縄県が治療をしています。尊いことです。

その点でこのアンケートを進める時も、辛いことを 思い出していただくことになるわけですから、その過程でのいろいろな思いを聞かせてもらうというか、一緒になって痛みを癒したいと思うのです。

だからポーンと投げて、「いついつまでに回答して下さい」という形にはしたくない。最初は対面方式でアンケートすることも考えましたが、かえってきついかもしれないということで、必ずしも対面でなくても良いけれど、できるだけ一対一で対応できるようにやっていこうとなりました。

森川さんのお知り合いで西河内さんという方がいて、医療問題に詳しい方ですが「こんなアンケートはこれまであり得なかった。普通はここまで丁寧にやらない。非常に社会的に価値あるものではないか」とおっしゃって、これが完成したら学会で発表しようと言ってくださっています。ぜひそこまで進みたいです。論文ができたら、関係する医療分野にも提示し、多くの医療関係者に読んでもらって、もう一度、被爆問題に

対する視点を考え直してもらうようにしていく。そういう ところまで持っていくことで、これまでの多くの人々の 辛い思いを少しでも癒していければとも思うのです。 是非ご協力をお願いいたします。

### ■栢菅勢津子さん

スポーツクラブで知り合った、私も被爆二世という 人と話した時、親から被爆のことについて一切聞いて いない、学校で教えられただけだと言っていました。

私の父も、子どもが生まれた時、「全部(手足が)ついとるか」と言って、「ついとる」と言われて、それから初めて自分が広島で原爆に遭ったことを伝えたと言っていました。

### ■吉川幸次さん

日本被団協の被爆二世アンケートについて状況を 説明しておきます。私は責任者ではないのですがワ ーキンググループに入っていました。調査されてかな りの時間が経っているので最終的なまとめをどうする のかハッキリさせないと駄目だと思います。回答して いる人はいろんな思いを込めて書いているわけです よね。書いていない人も、書けない、書きたくないおも いがあると思うのです。至急まとめて発表しないと駄 目だと言っています。

アンケートの配布数は17,567人、回収数は3,4 20人でした。

中間報告の内容はまだ検討されていません。数値の報告だけです。自由記入欄は膨大なもので、全体の3分の1は私が担当しました。そこに書かれているのは非常に重い話が多い。男性はあまり書いていませんけど、女性はたくさん書いています。ストレートに、思い切って。自由記入欄もしっかり公表していくことが大切です。遅くとも来年の被団協総会には。

### ■古田光恵さん

広島の二世でも親が被爆者手帳を持たずに亡くなった人があります。その人たちの親の状況を、例えば軍人だったら何処にいて、何をしていたか、調べれば分かります。希望者に対してそういう調査もとりくんでいこうと思っています。

もう一つは福島にもつながりますが、瀬戸内海の島 諸部で奇病が発生しています。その中で、私が話を 聞いた人で、その人の父親が癰(よう)ができ体を 移動して、心臓に至って亡くなったということが ありました。それから3年後には愛媛の方でも奇 病が、原爆症と同じ状況が発生したことも聞いて います。何を調べたらいいのか、村史とか町史と か、そういうものも調べようかなと思っています。

2世の運動としては、手帳をとらずに亡くなった人のことを調べる手立てはないかということが課題になっています。

### ■米重節男さん

京都で「2世・3世の会」を作った時に、40 数人が集まったのですが、半分ぐらいの人は、親 が亡くなって遺品整理をしたら被爆者手帳が出 てきて、初めて親が被爆していることを知った。 だから被爆の時の話は全然聞いていない、という ことでした。親が被爆者と知っていても親の体験 を聞いていない人ははるかに多い。親からしっか り聞いていたという人は、数えるほどしかないの が実態でしょう。

被爆についての概念は福島原発以降変わって きていると思いますけど、高専のクラスメートで 呉や江田島とかいますが、その周辺の島の人たち は原爆で被爆したとは全然思っていない。広島か らは遠いからと言って。私は旧安佐郡祇園町(現 在は広島市安佐南区)の出身ですが、私が子ども の頃には祇園は違う(被爆はしていない)、爆心地 からの距離は4\*ロほどだが直爆の範囲ではない、 という意識でした。原爆に遭ったと言うのは直爆 に遭ったという意味でとらえられていました。同 じ被爆者と言われる中でも、意識的にはそこの差 はあったような気がします。私の中学の同級生の 中にも実はいっぱい2世はいるわけで、町内の被 爆者の会の名簿を見たら隣近所の人がいっぱい 載っているのです。広島にいた頃は、私はそんな こと全然知りませんでした。45人ぐらいのクラ スメートの中にも二世は10数名になるのでは ないかと思います。

これから2世の繋がりを起こしていくのには、 健康問題が一番繋がってくるのではないかと思 います

### ■大内正子さん

広島の中國新聞ですけど、その記事によると被

爆者の60%は語っていないと出ていました。私の学校時代の同級生にも二世はいっぱいいるのですけど、語らないまま親が亡くなってしまって、自分が二世であることは分かっているけれど、親が何処でどのように被爆して、その後どうなったのか知らない同級生とかいっぱいいるのです。今頃になって調べたいと思っても何と大変なことかになってしまっています。被爆者自身がどんどん少なくなっている状況ですから、母親の友だちとか、知人とか、調べたい、聞きたいとと思っても、もうそういう人がいないというのが現状だと思います。でも少しでも早い方がまだいいので、意識のある人たちがまず調べて、こういう交流会のような繋がりで広めていくのが一つのやり方かなと思ったりします。

広島はいつも国際平和都市を謳っていますが、 広島市との交渉の時には、当然広島市、長崎市は 一番であるべきだと思いますが、実は全然進んで いません。そのことを言っても市の対応も担当者 レベルだけで、回答はいつも決まっています。国 や自治体はもうやめようというような姿勢で、ど んどん難しくなっている中で、私たちの側から少 しでもできること、可能性を広げていかないと、 今日のお話しを聞いていて思いました。

### ■守田敏也さん

私もさきほどの瀬戸内海の島しょ部の話を聞いたことがあります。しかしそういう話をするとすぐに「考え過ぎ」という声が上がります。実際の被爆被害と被爆者の認識と大きくずれている場合がある。おそらく被害の方がずっと大きいのだけれど、当事者の思いと食い違っている。実は当事者の思いの中には差別意識もあるわけです。「自分は被爆者だと思われたくない」という。これはこの問題に切り込んでいく際に、デリケートで大切にしなければいけない点だと思っています。私自身、まさにボーダーに立っているのでなおさらです。

福島原発事故以降のことですが、矢ヶ崎克馬さんという沖縄在住の物理学者の方と一緒に『内部被曝』というブックレットを岩波書店から出しました。低線量内部被曝の危険性をきちんと書いたのですが、しかしそれが誤って読まれると、「『内

部被曝』を読んだから福島の人とは結婚しない」 という差別を生むことにもなりかねないと思っ ています。被曝の危険性を説くことと、障害者や 被爆者への差別がクロスするところがある。

この点で私は試されたことがあるのです。尾道 市で講演した時に、ストレッチャーに乗った重度 の障害者の方が前に出てきて、「守田さんは俺た ちみたいなのが増えるから原発に反対なのか?」 と問われたのです。私は「まったく違います。放 射線はすべての人を傷つけ、病にするから反対な のです。それと障害者の尊厳のことはまったく別 です」と答えました。

そのように私がすぐに言えたのは、ダウン症の子どもを持つお母さんが『チェルノブイリ・ハート』という映画を観てすごくショックを受けられ、「原発の危険性を説くのに障害者を出す必要があるのですか?私は自分の子どもをこの映画に出せと言われても絶対に出せません」とボロボロ泣きながら訴えられました。その時からこの問題を一緒に考えてきたので、すぐに言える回答があってパッと語れました。その方は「ニヤッ」と笑ってうなずいてくださいました。

しかしこの大事な点に、放射線被曝の危険性を 説く方たちがあまり触れないのです。被ばくと障 害者問題をどう考えるかということを。これは本 当にセットにして語っていく必要があります。一 世の方の中に、子ども=二世を守るためにカミン グアウトしてこなかった方もたくさんおられる ことを考えても一層そう思います。その問題を常 に頭の中に入れて、私たちの運動を進めて行くこ とが大切だと思います。

### ■日高さん(オブザーバー参加)

昨日から今日にかけて5時間ぐらいずーっと 話を聞いていまして、そのことが修行のようでも あり、いい時間になったなと思っています。当事 者ではありませんから勝手な発言を許していた だければと思います。

時間というのは永遠ですが、自分たちの時間と言うのは有限です。僕は、37歳で東京にいる時父親になりまして、それまで演劇と言うヤクザな世界にいまして、自分は一生家庭を持てるなんて思っていませんでした。やりたい放題、したい放

題をやってきたのですけれど、それは未来に希望が持てない、というような自意識過剰なところがあったからです。ところがどういうわけか一人の女性と出会って、結婚して、娘が生まれたのですね。それで命と言うものを否応なく見つめるようになったのだなあと思います。

37歳の時、僕は初めてデモに参加しました。 日比谷公園を出発して銀座まで歩く原発反対の デモでした。僕は今日と同じようにデモに行った のです。どこに行けばいいのだろうと思っていま したら、「どこにも所属していない人は一番最後 に」と言われまして、この日生まれて初めてデモ と言うものを経験したのです。

僕を父親にしてくれたので、東京は原発に近いですから、東京脱出。娘が僕を目覚めさせてくれたというか覚醒させてくれたのです。僕たちは逃げようということになって、娘が3歳になる前に、岡山に移住しました。地球が大変なことにならない間だけでも、親子3人静かに暮らそうと思っての移住でした。

僕は企画作りの仕事を22年間やっていました。2001年に同時多発テロが起こって、こんなことを企画している場合じゃないと思って、その頃からより真面目になりまして、『アレクセイの泉』という映画と『祝島―氷の島』というドキュメンタリーを自主企画して。この岡山でもやりました。東京を去る前に行かなきゃいけないと思った所は第五福竜丸の展示館です。その時はアーサー・ビナードさんとは出会っていなかったのですが、次に行く時はベン・シャーンさんの絵本『ここが家だ』を持って行きました。その訳をしているのがアーサー・ビナードさんだったので、そのことは今朝のブログにも書きました。昨日の講演で僕の中にアーサー・ビナードさんがカチッとインプットされたのです。

我々は核と共に生きていくのか、核と共におさらばするのか、人類の岐路に立っているぐらいの認識をアーサー・ビナードさんはお持ちだと思います。ですから、私ごときでも、もう68歳になろうとする者でも、飛び込んで来させていただいて、今日は本当にありがとうございました。

### ■守田敏也さん

国に対して要請していくことや、運動団体の中でのことも大切ですが、私はむしろそれよりも、6割もの被爆一世が体験を語れなかったこと、そして2世・3世で起こっていることも互いに語り合っていないことがとても大きなことだと思います。反対に言えばそこに大きな宝があるでは。そこに私たちが踏み込み、タブーを越えて大事な真実をつかめば、国に対してもっと強い意見を言えるようになると思います。みんなでそれを目指したいです。

### ■分科会のまとめ(古田光恵さん)

分科会での話し合いが最後以下のようにまと められました。(要旨)

- ① 原発被害者も被曝者であるという考え方で 一緒にやっていこう。
- ② 2世独自でも国との交渉ができる状態をめずしていこう。
- ③ 京都のアンケートを、それぞれの地域の「2世・3世の会」と一緒にとりくんでいこう。 (了)

# 分科会1 「被爆3世同士でフリーに話し合おう」の報告

この分科会の報告は発言録ではなく、全体会の最後に行われた分科会報告(要旨報告)に代えさせていただきます。

## ■分科会報告(要旨報告) 石本 直さん(広島 県被爆二・三世の会)

「世同士で話し合おう」の分科は、岡山2人、京都1人、広島1人の合計4人で話し合いました。

3世は、お爺ちゃんお婆ちゃんがもう亡くなっていて直接体験を聞くことのできない人がたくさんいます。直接きけるわけじゃないからこそ、二世の親の世代が被爆一世から一体何を聞いてきているのか、ということを今度は自分たちが聞き取っていくことが必要ではないかと思います。親の世代が被爆者に対してしてきたことと同じように、自分たちが2世の世代から聞き取りをして、



それをまとめる必要があるのではという話になりました。

その他にも、同じ被爆三世と言えども、広島の運動と、その他の地域での被爆者の子孫であると言う ことの位置づけでも、運動の持って行き方でも、いろいろなやり方があるという話になりました。

そして、被爆三世という自分のアイデンティティを利用して、今後どういう運動の仕方をしていこうかという話になりました。

自分の感想としては、広島にも被爆三世はたくさんいるので、本当はもっと連れて来たかったのですが、運動に立ち上がっている三世は本当に少なくて、そういう人たちを今後どういうふうに巻き込んでいこうかというところで、すごく参考になった分科会でした。(了)

全体会、分科会の全日程を終了後、 「岡山空襲を語り継ぐ会」のご案内 で、フィールドワーク「岡山空襲戦 跡巡り」を行いました。



# 参加者感想文

### ■アーサー・ビナードさんの講演と紙芝居実演について

• 紙芝居の絵が感情を表現しているようで非 常に印象的でした。

またアーサーさんの語りは淡々としていな がら心に響いてきました。

講演については、非常にストレートに言いに くいこともはっきりと言われていたので、と ても気持ちよく聞けました。私は被爆や核を とりまく世界情勢に十分な知識がないので すが、ジョークを交えて面白く話して下さり、 知らなかった事実などとても興味深かった です。

- 日本人の「常識」と思われていることが、別 の見方があるということがよく分かる話だ った。
  - 分かり易く面白い語りで、訴えるものが感じ られました。
- 「視点を変えることで見えてくるもの」、さ すが私たちの見方や考え方について参考に なりました。
  - 時間を感じさせないで、すごく楽しく勉強に なりました。

- アメリカの被爆者の多さに気付きました。
- 外国人、外人、唐人・・・が倭人に同化した ような表現で鋭く語ってくれた。
- ①日本人は線引きをし、良くも悪くもリセッ トする。②Hiroshima、Nagas akiが動詞で使われる。

ピカドンとピカの違いは以前の講演でも聞 き、納得しました。

新しいお話しを聞き、米国の核政策は連綿と 続いている。

広島の平和、長崎の平和だけでは反核の運動 にならないのではと不安。

ビナードさんは深い所で理解し、異なった視 点から考えさせてくれるので、何度聞いても 学ぶところがあります。

私は、父が船舶兵で8月6日金輪島~入市救 援活動した2世です。現在河野きよみさんの 伝承をしていこうと学習中です。

これからも精力的に活動して下さい。

• 日本人以上に日本語(言葉)に対する見識に 驚かされました。また一つ一つの言葉の意味 を、外国語及び日本語の両面から見つめ直す 姿は素晴らしかったです。

そして一貫して平和を希求する行動力と姿 勢に感動しました。

• いつになったら紙芝居が始まるのかと途中から気になりましたが、前段の長い話があってこその紙芝居だと思いました。

文学者でもあり、哲学者ですね。物事を現象にとらわれず、本質を追求すること、そこから出発して結びつくことが重要だと改めて思いました。

「線引きで考えないこと」すべてに重要かも しれません。アナログのアーサー・ビナード さんが少し分かったような気がします。あり がとうございました。

- 海外から広島に来た人にノーモア・ヒバクシャ署名をお願いすることがあり、その人たちは「ノーニュークス、サインプリーズ」と言うと応じてくれますが、その人たちも「壊す」という意味で「ヒロシマ」という言葉を使っているのかと思うと、とても辛いです。
  - 紙芝居は写真撮らないようにと呼びかけていたのに、撮影していた人がたくさんいたのが悲しいです。「ルールを守れない人が「ルールを守れ」と言えるのでしょうか。
- 日本語、日本の習慣などについて、外人さん としての違った感覚、見方を知り、大変興味 深かったです。

「ピカ、ピカドン」が広島の人々の感覚、体験からできた造語というのも新発見でした。 その違いにビナードさんは原爆被害にまで理解されて感じておられ、他の造語なども取り上げて、実態や平和の危機状況をはっきりと示して下さったことに「目が鱗」でした。「ちっちゃい声」の紙芝居は、小さな子から大人まで、ヒロシマの生き物たちの突然の悲惨な様子が分かり、しんしんと体感できると思いました。

 私たちは真実をまったくと言っていいほど 知らされていないことを、アメリカもおなじ ようであることを知りました。真実を知るこ とは自分から行動していかなければいけな いこと、自分たちで自分たちを守っていかな いといけないことを強く感じました。

アーサーさんの話を聞いて、日本人として知らなければいけないことがたくさんあると感じました。

原爆について知らなかったことを知ることができました。

アメリカにも実験のための被災者がいたことも知ることができました。外人としての見方の違いも知ることができて勉強になりました。

機会があればまたお話を聞かせていただきたいと思いました。

• 日本語で、普段私たちでも使わない言葉を使ってのお話しをしていただき、私たち日本人の目線でだけでなく、本当に知らないアメリカの内部的な部分も教えてもらったことも知識の一つで、子どもたちにも話してやりたいと思いました。

最も日本人的な感覚でお話しを聞かせても らって良かったです。

原爆はアメリカでも多くの被爆者がいることを初めて知ってびっくりしました。

講演は圧巻でした。話も進化していて具体的で良かった。廣島、広島、ひろしま、ヒロシマの使い分けと、世界各地での「・・・shima」を使った闘いなど興味深かった。また英国ウェルズ地方のウィルファでは「wylfashima」で結集した人がこれは福島の「shima」だなど、改めて、ヒロシマ・フクシマの闘いは世界の願いと呼応していると感じた。

また、原爆の英語の使われ方「ナガサキもヒロシマもニューク(核兵器)を付ければコテンパンにやっつけること」と聞き背筋が寒くなりました。

また、広島での「ピカとピカドンとそれぞれ 話す被爆者の被爆した場所の地図を落とし て、世界中で話すときその都市に被せて見せ ると怖さがよく伝わるのではないか」と言わ れたが、さすがだと思った。そして、伝承者 も伝え方を工夫しなければならないとも感 じた。 英語も日本語も堪能だからこそそれぞれの 欺瞞に気付き、また「おかしい」と思ったら すぐに調べる・・・このことは学ばなければ ならないと思った。

原子爆弾と言うが原子ってなんだと問いかけられ皆が原子でできている、この言葉を使うことで曖昧にしている。このこともショックでしたが、私は「核爆発・核発電」と言うようにしています。

- 紙芝居の上演は泣いてしましました。私も保育園児に伝承する時、飼っているペットの気持ちになってお話しをしますが、その方が怖すぎず良いと思ったとビナードさんも話されていました。そして細胞の声で生死を表す工夫は苦労されたと思います。ぜひ子どもたちに見せたいと思いました。
- 紙芝居、久々に見ました。 外国の方の視点で、少し毒舌?な語り口。でもすごく本質を突いたお話しで、私もすごく 騙されているなあ、と。もう少し一生懸命向き合えば冷静に見抜くこともできるだろうに・・・と反省しました。

言葉を置き換えて、平和なふりをしながら不 安がるのは止めて、なんでもまず一歩踏み出 せなくては、と思いました。

- 言葉の線引きで誤魔化されていることを多く知りました。原爆、原発の恐ろしさを心から分かりました。
- 言葉で線引きされる世界を教えてもらいま した。
- アメリカ人の視点からのお話、大変感動しました。「原爆の図」の本物を見てみたいと思いました。
- 広島・長崎の原爆だけでなく、いろんな所で 原爆は落されていた。現在の福島の原発の問 題もやはり続いている。大いに問題ありで声 を上げないといけない。
- 「ヒロシマ」について、「原爆」について、 知らないことばかりのお話しでした。広島と 長崎に使われた原爆が、まったく違う物だっ たなんて思ったこともありませんでした。び っくりするお話しばかりで、今日、お話しを 聞けたことは本当に良かったと思います。

- 以前から氏の講演を聞きたかったのがやっ とかなえられて良かったです。
  - 普段見過ごしていると気づかないでいることに光をあて、改めて深く考えさせられ、勉強になりました。
- 「ピカ」と「ピカドン」、「広島」と「ヒロシマ」など今まで考えたことのない視点で、いろいろ考えさせられることの多いお話しでした。日常生活をもっと丁寧に流されないように、と思いました。

紙芝居の実演もとても力強く、その世界に引き込まれました。もっと多くの人に聞いてもらいたいです。

- すごく楽しくて色々なことに気付くことができました。一億(?)の日本人総被爆者って本当ですよね。本当にボーっと生きているけど、ちゃんと見抜いて投票します。いっぱい笑いました。
- 紙芝居をもう少しゆっくり見たかった。
- ユーモラスで雑学に溢れた素晴らしい講演でした。
- 日頃無意識に使い分けていた言葉の意味に ついて鋭い指摘を受けて刺激的な話でした。 また講演を聞ける機会があれば嬉しいです。 紙芝居は先に絵があったものというギャッ プを感じさせず、迫力のあるものでとても印 象に残りました。
- 思いもよらない発想で、深く深く考えさせられました。たくさんの刺激をいただきました。
- 言葉一つひとつにある深い意味が面白く分かり、大切だと言うことが分かりました。 1945年夏、5歳でした。横須賀に住んでいました。あの日、西の空に光ったものが強力な記憶に残っています。恐ろしいものが起こった!!草も木もはえないことなどいろいろな風評が流れたことを思い出し、改めて今日の話をダブらせて聞きました。
- 紙芝居の絵は遠くだったのであまり見えなかったのですが、内容はずっしり重く、でも心に訴えるものがありました。
  - 講演内容は共感することが多く、私自身にもできる原発反対を主張したいと思いました。
- 騙されてきたことをいろいろ考えさせられ

ました。知らないことがまだまだあります。 原爆が原発に化けた!一億総被曝!

お話しも紙芝居も初めてでしたが、言葉と言うものをどう捉えるのかによって、ここまで見えてくる本質が違うのかと驚かされました。

そして今まで大雑把に言葉を使っていたことを恥ずかしく思いました。ありがとうござ

### 【岡山スリーピースの朗読劇】について

- とても上手に朗読されていて引き込まれました。私は親の体験をあまり聞いていないので語り部は難しいかもしれませんが、朗読だとできるように思いました。
- スリーピース良かったです。マイクの調子が 今一歩。
- 被爆体験にとどまらず「新しい憲法のはなし」 まで語られたことが良かった。重要なことだ と思います。
- 原爆について思い出したくない被爆者がたくさんいるのに、こうやって語り継いで行くことがとても重要です。
- 映像が入って良かったです。もう少しゆっく りと朗読し、間合いの取り方を研究するとま すますよくなります。テープを取ってみたら 良いのでは?
- 朗読劇は何度もうかがっていたつもりですが、こんなに写真などがたくさんで、身につまされる内容だったのだ・・・と改めて思いました。
- 全体にすごく面白かった。常々元号がおかしいと思っていたのでよく同感できた。日本語の特徴もよく分かった。Hiroshima

いました。これからもっと原発の問題にできることをしていきたい。

• いい講演でした。アーサー・ビナードさんの 視点は素晴らしいと思います。第二次世界大 戦中も後も戦争を金儲けの場とする人たち がいる。当然今の日本にもそういう人たちが 支配をしている。自分たちにできることをし て、世の中を変える必要を改めて感じました。

の話も興味深かった。造語のピカドンもいろ いろ考えさせられた。

一億総被爆者にはドキッとさせられた。初めて知ったこともたくさんあった。本当に今日は参加して良かったです。紙芝居も良かったです。

• 紙芝居は発行時すぐに購入して、大学や看護 専門学校の学生にも(講義で)読んであげて います。

アーサーの話は今回で多分8~9回目ですが、相変わらずユーモア交えて真実に気付かせてもらえます。

- あらためて日本人以上に日本語を巧みに使いこなし、本当のことを分かり易く、面白く話されてとても良かったです。 新芝足は原爆の恐るしまを伝えるツールに
  - 紙芝居は原爆の恐ろしさを伝えるツールに なるものだということも分かりました。
- アーサーさんの並々ならぬ生涯の半分以上 を日本のために勉強されたことに深く厚く 御礼と感謝を申し上げます。

また、いくつもの何人ものご縁でこの場所にいられること、企画された皆様ありがとうございました。

### 【守田敏也さんのアメリカ・ニューメキシコ州とワシントン州の視察報告】について

- 明確で分かり易かったです。核実験によるアメリカ人の被爆のことは知らなかったので勉強になりました。特にアメリカの被爆者の方が原爆の投下を詫びるということは心に残りました。原爆だけではなく、広く核による被爆被害にも目を向けていく必要があるのでは、と思いました。
- アメリカの核被害者の状況は、あまり知るこ

- ともないのでよく分かりました。
- 外国から見た被爆者のこと知らなかった。アメリカ国内の被爆者の多さにびっくり。
- ニューメキシコ、ハンフォード、今後も様々な視点から国際的な知識や情報を得る活動を応援します。
- アメリカ (ニューメキシコ州) での被爆の実相を初めて聞きました。核被害者という意味

ではつながっていくことが大切であり、今後 の活動の一つの指針となるものと思いました。

- アーサー・ビナードさんのお話しとリンクして、原爆開発・戦争が企業の儲けと支配層のペテンであることが、今もそれが続いていることが深められました。民族を超えて連帯しなければ。
- 先住民の人の生活を脅かし、その上でその先住民を被爆させたり、多くの事実を隠すアメリカに強い怒りを感じます。
- ビナードさんの講演からつながる守田さん のアメリカ・ニューメキシコなどの被害実情 を聞き、新しい事実を多く知ることができま した。
- アメリカの実態も知れて良かったです。世界 が平和になるよう、皆で力を合わせていけた らよいな、と思いました。
- 日本だけが原爆を落とされたのだと思っていました。アメリカ人も実験のために多くの被爆者がいるということを知りびっくりしました。

アーサー・ビナードさんが言われていた広島・長崎の人たちだけが被爆者ではなく、アメリカの人たちもみんな被爆者だと言われていたのはその通りであると思いました。

最初の被爆が原爆を落としたアメリカ人で あることを知り、なんでと思い、腹立たしく 思いました。

色々勉強させていただき、有意義な時間を過ごさせていただきました。

- アメリカの核の処理の仕方のずさんな対応 に驚きました。
- 素晴らしい!様々な出会いが導かれているようだと話されましたが、それは物事を真剣に考え、取り組んでいる方だから神経が研ぎ澄まされていくのではないでしょうか。世界中が被爆をし、特に核兵器を作る武器商人がアメリカの人たちを被爆させている。アメリカの人に見せたいと思いました。そして日本でも広めていきたい。
- 現地に直接行かれた方々のお話しでよく分かりました。核について、アメリカの方々にもいろいろお考えの方がいるのが分かりました。

### 【森川聖詩さんのDepAUL大学特別授業の報告】について

- もう少しお話しを聞きたかったのですが、時間が足りなかったのが残念です。
- 森川さんの話は、少し時間が足りなかったの が残念です。
- 伝えることの大切さと難しさを感じました。
- 森川さんはシカゴでの活動報告をされ、若い アメリカの学生と交流され、心強く感じまし た。学生の反応や考えをお聞きしたかったで す。
- 宮本ゆきさんが他国の大学でされたこと。そ

- こに至る経過や学生の反応などが聞きたかった。時間が少なかったのが残念。
- 遺伝的影響は多くの2世・3世の実態が示しているのに、それを認めない放影研や政府の見解は許せません。理論からではなく実態からの接近が求められます。
- 森川さんのシカゴの大学での授業体験から、 二世の方がアメリカの若い学生に被爆被害 の実態を知らせ、将来を見つめるよう、実践 されていることがすばらしいと思いました。

## ■分科会に参加しての感想 【被爆2世・3世の健康について話そう、考え よう】

- 健康問題は、2世・3世の会の運動を広げる 中心になると思う。もっと共通認識を広げる必要がある。
- 一人ひとりの親の体験について語りあう自

己紹介が良かった。

健診についての話し合いも良かった。

参加者一人ひとりが、親、本人の体験、疾病の実態など、赤裸々に語られ、自分のことと重なることも多かったです。

また神奈川などの医療保障などの経緯、事態 はとても参考になりました。

2世として、個々の思い、体調に対して、これからの安心・安全に向かうよう、できることを多方面からやっていくべきと思いました。

今回初めてでしたが、それぞれの体のことなどを話してもらった上、今後取り組む課題についても提案してもらいました。

森川さんの神奈川での取り組みを聞くうち、 1970年代の活動が私と同じ時期なので、 その当時の広島の取り組みと結果を話すこ とができました。

そして京都のアンケートを一緒にとりくみ、 それをツールにして被爆二世の独自の厚生 労働省交渉をする。紹介議員には超党派の議 員に当たることなどを話し合えて良かった。 あらためて竹永さんの伯父さんの話を聞い て涙が出ました。広島の「木の葉のように焼 かれて」の最初の編集者だった久保美津子さ んの弟さんも同じように家出を繰り返し、最 後は行き倒れで亡くなっていたことを思い 出しました。

### 【被爆体験の継承と仲間づくり】

• 親が自らの被爆体験を書面にまとめている 方、被爆体験をよく親から聞いている方がい らして正直うらやましく思いました。やはり 親から直接聞いていたら、平和に向けての運 動の大きな力になると思いました。

母からあまり話を聞いていなくて、またあま り興味もなかったので、もっと母に話しを聞

### ■交流会全体を通じての感想・ご意見

 被爆者の会に入って3ヶ月程度で、まだまだ 知らないことが多過ぎるのですが、非常によ く勉強されている方が多くて刺激を受けま した。家族のように思える方たちとのご縁に 感謝し、これからの活動のパワーをもらった ような気がします。

お世話された岡山の方々等、準備が大変だったと思います。とても有意義な会でした。ありがとうございました。

いておけばよかったと、後悔の念しかなかったのですが、自分の親の被爆体験はなくても 継承はできると思い、朗読等やっていきたい と思います。

• 被爆体験の継承は、親や祖父母の世代が他界 していく中でだんだん難しくなる。記録を残 すことが大切だ。

原発の存在や、現在に残る危険が続いている ことに思いを寄せ、今後とも頑張っていきた い。原爆は良くないが、原発は発電だから良 いなどという勘違いは絶対にそのままにし ておいてはいけないと思う。

- みなさん一人ひとりの体験、考え、情報が素 晴らしく、大変刺激を受けました。今後に向 けての交流につなげる糸口になり、大変良か ったです。
- 参加された皆様の思い、様々な活動状況、被 爆者及び2世の健康状況の報告等、大変有意 義であったと思います。

また出版等を通じていかに若い人(3世以降の次世代)に体験を伝えていくのか、今後の 課題はあるものの、引き続き努力は必要と感 じました。

• 各地で2世が様々に活動されていることとか、親の被爆体験を語られていることは勇気 づけられます。全員発言できたのは良かった。

### 【3世同士でフリーな話をしよう】

参加された3世の方はみんな同世代だった ので自由に発言できて良かったです。

- アーサー・ビナード氏の講演は良かった。客観的であると共に主観的でもあり、鋭い口調や言葉で話されたのは、日頃から自分が言いたいと思っていることをそのまま言ってくれたような気がした。
- 岡山の方たちの熱い思いが伝わり、今回の企 画から実施までの努力が報われる良い活動、 結果だと思います。
- 大変良い交流会であったと思います。

- アーサー・ビナードさんは講演時間を気にされないので、運営する側は大変だと思います。
   二世の会はなくても、多くの県から2世・3世の方に参加していただければもっと広がっていくのではないかと思います。
- 広島から他の3世会員を連れて参加したかったです。
- アーサー・ビナードさんの話、守田さんのアメリカなどの被爆の実態報告など、初めて知り、分かり、自身の不勉強を感じる機会となりました。

岡山の方々、どうもありがとうございました。 お世話になりました。

- 本当にありがとうございました。志賀さんが おられなかったので寂しかったです。
- 「来年は広島ですか」と問われましたが、「来年はNPT、広島が本大会、全国歌声祭典」と大きな催しもあり、広島、京都、岡山と一回りしたこともあり、小休止した方が良いかなと思っていますが、これから相談です」と答えました。

ビナードさんによれば、オリンピックはなくなるそうですが、広島はホテル代が高くなってどうしようかとも思っています。

# ■一般参加者のアンケート「核兵器と戦争のない世界を創造するためにできること、被爆2世・3世の活動へのご助言などをお願いします」

- 知らない、気付いていない人が少しでも減る よう、学校などたくさんの人が聞いてもらえ るところで朗読劇をするなど、種蒔きが必要 だと思います。
- 戦争、核について知らないことがたくさんあります。また、原爆、戦争を知っている人々と話しのできる若者が減ってきています。今のうちに若い人々に原爆、戦争のことを伝える活動をして欲しい。
- 貴重な被爆体験者を父母や祖父母に持つ人間として、今後も活動を広げて欲しいと思っています。 賛助会員として、日本人として、核兵器のない平和な世界が一日も早く来るよう願っています。
- これからも頑張ってください。気づきをいた だけるイベントを企画してください。
- 原水爆禁止条約に国が批准するための活動 を、自分なりに考える。
- 署名活動に一層励まなければならないと思います。
- 原発、核兵器のことを考えると問題の大きさ に気が遠くなるのですが、「日本人が受けた

- こと」という固い殻を破って、人類が受けた ことにしなくてはならないことを学びまし た。
- 安倍政権をなくなさなければ、これからの日本はなくなると思います。
- 初めて参加させていただきました。まわりの 人にこの活動を知らせることができたらな あ、と思いました。
- このような会を続けていきましょう。
- 朗読劇、河野信子さんの体験記、初めてお聞きしました。
- 核と放射線、放射能物質の恐ろしさをだれだけ、他人事にならないように理解していくことが大切だと思いました。
- 小さな積み重ねだと思いますが、一人でも二人でもこの活動を知り、その輪が広がることを。微力ながら私にもできることがあれば広げていきたいと思います。

私もつい最近加百さんと話をして初めて、あ あ2世だと分かった次第です。青い空の歌が 胸に熱い血の流れを感じました。

